

平成20年第2回尾鷲市議会定例会会議録

平成20年6月11日(水曜日)

議事日程(第3号)

平成20年6月11日(水)午前10時開議

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 一般質問

出席議員(15名)

1番 神保美也議員	2番 内山鉄芳議員
3番 三鬼孝之議員	4番 田中勲議員
5番 真井紀夫議員	7番 三鬼和昭議員
8番 高村泰徳議員	9番 與谷公孝議員
10番 端無徹也議員	11番 濱中佳芳子議員
12番 北村道生議員	13番 村田幸隆議員
14番 濱口文生議員	15番 中垣克朗議員
16番 南靖久議員	

欠席議員(0名)

説明のため出席した者

市 長	奥 田 尚 佳 君
会計管理者兼出納室長	湯 浅 英 男 君
市長公室長	栗 藤 和 治 君
総務課長	仲 明 君
防災危機管理室長	川 口 明 則 君
税務課長	世 古 正 太 郎 君
福祉保健課長	宮 本 忠 明 君
環境課長	楠 文 治 君
環境課廃棄物・資源リサイクル担当調整監	児 玉 佳 高 君

市民サービス課長	山下 恭徳 君
建設課長	北村 都志雄 君
新産業創造課長	奥村 英仁 君
水産農林課長	佐々木 進 君
水道部長	岩出 育雄 君
尾鷲総合病院総務課長	大川 一文 君
尾鷲総合病院医事課長	世古 譲治 君
教育委員長	北澤 雅臣 君
教育長	田中 稔昭 君
教育委員会教育総務課長	吉澤 壽朗 君
教育委員会生涯学習課長	三木 正尚 君
教育委員会学校教育担当調整監	玉津 勲哉 君
監査委員	濱田 俊次 君
監査委員事務局長	濱野 薫久 君

議会事務局職員出席者

事務局長	山本 和夫
議事・調査係長	内山 雅善
議事・調査係主査	竹平 専作

〔開議 午前10時00分〕

議長（與谷公孝議員） これより本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員は15名であります。

よって、会議は成立いたしております。

最初に議長の報告ですが、お手元に配付の報告書は朗読を省略し、これより議事に入ります。

本日の議事につきましては、お手元に配付の議事日程第3号により取り進めたいと思います。よろしくお願いたします。

それでは、日程第1「会議録署名議員の指名」を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第80条の規定により、議長において13番、村田幸隆議員、14番、濱口文生議員を指名いたします。

次に、日程第2、昨日に引き続き一般質問を行います。

最初に、15番、中垣克朗議員。

〔15番（中垣克朗議員）登壇〕

15番（中垣克朗議員） 皆さん、おはようございます。舌にアフタができておまして、発声、発音、その他お聞き苦しい点が多々あるかと思いますが、ご容赦ください。

市長の初登庁の日は、あいにく雨で、かっぱ姿で自転車出勤のパフォーマンスの様子は各報道で取り上げられました。当日、有権者1万8,840人の中で34.3%の6,470票の支持で当選なさいました。しかし、約65.7%の人が支持していたわけではありませんが、辛勝とはいえ立派な当選には間違いのないことでもあります。3分の2の方が支持していなかったことを念頭に置き、一部の支持者のための施策でなく、全体を視野に据えた感覚を発揮していただきたいと切望します。

市長の行財政の問題意識や言動に賛否両論が渦巻く中で、大阪府知事の話題性と行動力になぞらえて、尾鷲を何とかしてほしいという期待と、あなたの発言に対して前途に不安と危惧を持つ市民意識が交錯しています。私は是々非々のスタンスでまいりたいと思います。

起業家支持、若者向けのまちづくり工房や高齢者向けのご意見番工房などを設置して、実際にまちづくりを生かす部署づくりをするという試案の実行には私も期待しています。住みやすいまちづくり、魅力あるまちづくりを基本理念として標榜なさっておられますが、早く具体策を提示して迅速果敢に実現してほしいも

のであります。

住みやすいまちづくりは、快適な環境整備をすることであり、人の心を安心させるということでもあります。人の心を傷つける人は、ドグマを振りかざすタイプであり、古今東西、為政者としては不適切であります。市を動かすのも人の心次第であります。市政を束ねるリーダーとしての立場で、人権に対する認識をお聞きしたいと思います。

東紀州5市町で構成する熊野人権擁護委員協議会が、5月中旬、中央公民館で開催され、市長も来賓として出席なさったことは地元紙で報道されました。「子どもの人権」、「男女共同参画社会」のテーマとともに、今年度の活動方針として、「育てよう一人一人の人権意識」、「あらゆる差別意識を解消しよう」との趣旨目標を採択しました。そこで、「いまだに物質的な豊かさだけを追い求め、心の豊かさをはぐくむことに関心を持たない風潮や、他人への思いやりの心は薄れ、自己の権利だけを主張する傾向が見受けられる。このような状況がさまざまな人権侵犯を発生させる要因になっている。」と人権尊重の理念を正しく理解することの重要性を指摘し、さらに生命のとうとさや大切さを訴え、自己とともに他人もかけがえのない存在であり、他人との共生、共感の大切さを真に実感できるように啓発が必要とし、世界人権宣言から60年の節目に、29人の関係委員の方々が尽力なさっています。人の心の共感を得るということは、市政にも大きく影響する課題であります。思いやりの心と命の大切さを広く訴える人々の声を、市長はどう受けとめ、基本的人権をどう認識しておられますか。

次に、緊急課題やあなたの言動や公約、所信表明などを検証しながら、善政を祈りつつ、諸行政の問題意識についてお尋ねいたします。

まず、公用車について。トップセールスマンとして市外での職務を迅速に遂行するためには公用車が必要であると私は思います。燃費よりも国や県から多角的な視点で今よりももっと補助金をもらえる作戦展開をするのが得策だと思います。市長の市長公用車廃止は、財政的見地からの断行だと思いますが、いかがですか。どういう効果があったんですか。伊藤さんは、デカップリングなど国や県からよく補助金をもらってきました。

退職金について。三役の退職金4年分の3,070万円の廃止案は、画期的で議会の承認を得られるでしょうが、そういった条件で国や県から行政通の優秀な人材が来てくださるか心配であります。また、市長の給料5%カットや賞与の10%カットは前市長からやられていましたし、踏襲されたものですが、相違

点は任期満了までと期間を明確に延長されたことであります。退職金を浮かせた財源で、高齢者に優しい道路整備の公共事業や乳幼児医療等の個人負担を軽くするために使いますとありますが、市民も楽しみにしておるでしょうから、もう少し具体策をお示してください。

清掃工場について。開会日に環境課から清掃工場の焼却炉の耐火物が落ちて1台焼却炉がとまったという速報がありましたことから、清掃工場について質問させていただきます。市長は議員時代から、殊、清掃工場のことになると感情をむき出しに質問されていたのが印象的でしたが、この清掃工場も日々の生活から出るごみを処理する施設であり、私は市民の安心・安全を守る上では重要な施設であると認識しています。清掃工場について、市長がおっしゃる住民の安心・安全を拡大するという観点から見た現時点での市長のお考えをお聞かせください。また、市長がわかる範囲で結構ですが、今回の清掃工場の耐火物が落ちた事故で片方の炉がとまっているということですが、修理にどれぐらいかかるのですか。

三木里問題について。前市長は三木里を東洋のマイアミにしたいといつも言っていました。私も三重県有数のこの海水浴場が地域を挙げて観光客を呼び込めるように願っています。水質基準をクリアしているのに、市長、本当にあなたは飲料水として不適當だと思いませんか。

六つ、夕張問題について。前市長はいち早く財政危機宣言を出し、絶対に夕張市のようにならないようにと強い意思表示をしましたが、あなたはいつも夕張になる、夕張になると言い続けました。伊藤さんは夕張にしないとやっているのに、あなたは危機をあおり続けました。その根拠は奈辺にあったんですか。あなたのこういうふうにするから夕張にしないとというビジョンをお示してください。

これにて壇上からの質問を一たん終わらせていただきます。

議長（與谷公孝議員） 市長。

〔市長（奥田尚佳君）登壇〕

市長（奥田尚佳君） それでは、中垣議員の質問にお答えいたします。

幅広くお聞きになられましたけども、まず一つ、最初に、基本的人権についてどう考えているのかということでありましたけども、中垣議員が言われたように、5月16日に熊野人権擁護委員協議会総会が開かれました。その中で、世界人権宣言60周年ということで「育てよう一人一人の人権意識」、「思いやりの心・かけがえのない命を大切に」ということを重点目標ということで、「あらゆる差別意識を解消しよう」、「子どもの人権をかがやかそう」、「男女共同参画社会

を目指そう」というようなことが目標として掲げられました。私も来賓という形で、この日、参加させていただきまして、それで、始まる前に紀北町の長井会長と話をする機会がありまして、人権擁護ということは、思いやりの気持ち、そういうことが非常に大事であって、それで、やっぱり何を言っても大人が模範となつてやらないといけないんだということを長井会長は言うておりました。子供のいじめ問題とか、いろんなことがあるけれども、子供というのは大人を見て育っていくわけだから、そういう意味では大人がしっかりしていかないといけないんだよなということを切々と切実に言われていまして、私もあいさつの中でそのような旨の話をさせていただきまして、やっぱり自分たち大人が模範となるように、少しでも思いやりの心を持って差別のない社会を私も市政の中でやっていきたいということを申し上げた次第であります。ですから、私は人権に対してはそのような考え方を持っております。

それから、二つ目に黒塗り公用車のお話をされましたけども、これまで前市長は通勤にも今年の1月まで使われておったと。私が思ったのは、人口も2万2,000人を切ってきた。市といいながら、かなり過疎化が進んでいるという状況の中で、ほかの大都市のようなところと同じように、ああいう黒塗りの公用車を乗り回すということはどうなのかと。そういう意味で、財政再建ということもありますし、それから、今、環境問題がいろいろありまして、CO₂削減ということも言われております。ですから、いろんな意味で、いろんなことを考えた上で、確かに中垣議員が言われるように賛否両論あります。黒塗り公用車で行った方が県庁なんかもすぐ対応してくれるんじゃないかとか、確かにそう言われる方がいらっしゃいます。でも、賛否両論あると思いますけども、私は総合的に考えて、今のこの尾鷲市の置かれている状況の中で、やっぱりあの黒塗り公用車はふさわしくないんじゃないかということで、私はそういうことを思って、リーダーシップを持って市長みずからそういうこともやっていかないといけないんじゃないかということで、私はそのように考えている次第であります。

それで、あと退職金3,070万円。市長が1,620万円、三役合わせて3,070万円あります。この退職金を私は廃止したいということで申しあげました。それで人材が集まってくるのかということをお願いしております。確かに心配はないとは言えないです。ただ、私はこういう尾鷲市の財政状況の中で、いっちょ尾鷲のためにやったろかと、退職金をもらえなくても尾鷲市のために全力を尽くそうやと、尽くすという使命感とか責任感を持ってやってくれる方は、私

はいらっしゃるということだと思います。ですから、確かに中垣議員が言われるように、人材の問題はありますけども、今回も教育長が決まりましたけど、そういうことで、この退職金がないからということで人材が集まらないとか、そういうことは、私は今のところ気にはしていないということでもあります。

それで、具体策はどうなんだということですけども、確かに1期4年で3,000万円以上のお金が浮くわけですから、だから、その分をできる限り福祉、乳幼児医療費の補助を上げる、それから、今、尾鷲市のこれだけ高齢化が進んでいる中でも、道路なんかを見ても結構でこぼこなところがあると。だから、そういうところに、本当に少しかもしれないけども、そういうものを私は少しでも割きたいという私の思いがあります。ですので、ぜひその辺のところをご理解いただきたいというふうに思います。

それから、清掃工場につきまして、確かに今、2号炉がとまっています、1号炉だけということで動いております。以前から言われているように、清掃工場はかなり老朽化しています。ですから、今、昨年も調査で入ったと思いますけど、広域ということも含めて、やはり市民の皆様が少しでも安心できる、そういう施設じゃないといけないと思っていますので、この辺は先ほど申し上げたように、広域も含めて、財政の問題がありますので、今、検討している状況であります。それで修理にどれだけかかるのかということですけども、今、担当の方には速やかにやるようには指示は出しております。だから、1日も早く修理が終わるようということで進めている状況であります。

それから、財政の問題で、前市長が夕張市のようにならないということをおっしゃると、なぜ危機をおおるようなことを言うんだということでもあります。ただ、私は危機をおおっているわけではなくて、きのうも少し申し上げましたけども、昨年の11月に財務担当の方から、これは中垣議員ももらっていると思います。「尾鷲市財政の現状と今後の見通し」という状況の中で、今後、学校耐震も含めたら、21年度、22年度、23年度、この3カ年で18億6,000万円の財源が足りませんということなんです、今の状況じゃ予算が組めませんという状況なんです。私はこういう客観的なデータに基づいて申し上げているだけの話で、別に私は危機をおおっているわけじゃなくて、私はきのうも申し上げましたけども、議員のときにも感じていました。財政はかなり厳しいなと思っていましたけども、市長になって改めて財務担当の方々と話をしても、こういうデータを見させてもらっても、細かい資料を見させてもらっても、思っていた以上に厳しいん

ですよ。だから、私は危機をあおっているわけじゃないんです。

1年前の1月、北海道の夕張市が財政再建団体になって、今年1月で1年たったということで各マスコミが取り上げておりました。その中でも、二百数十床あった病院が19床の診療所になってしまったとか、各公民館とかいろんなものが閉鎖してしまった。住民サービスはかなり低下してしまって、カットされたものも十分ある。住民税も上がった、水道料金も上がった。そして、皆さんもごらんになったと思いますけども、市営プールがあって、プールが雪で屋根が崩れたけども、その修繕もできない。そして、皆さん市民の方々は、どんどん逃げるような形で町を離れていく。残った高齢者の方々、年金生活をしている高齢者の方々が最終的に苦しんでいるということをもマスコミで取り上げていました。ですから、私はこの財政再建団体というのは、皆さん、今のところどうなのかな、危機感というのはどの程度お持ちなのかわかりませんが、なってしまったら、ただで済まないんですよ。町が崩壊してしまうんですね。ですから、私は危機をあおっているわけじゃなくて、財政再建団体になったら町が崩壊してしまう、もう取り返しのつかないことになってしまう。そういう意味で、私は、今、財政再建が重要じゃないかということをお願いしているだけでありまして、私は中垣議員が言われているように決して危機をあおっているとか根拠がないことを言っているということではありませんので、ぜひその辺のところをご理解いただきたいというように思います。

以上です。

議長（與谷公孝議員） 15番、中垣議員。

15番（中垣克朗議員） ありがとうございます。

伊藤市長も、夕張問題については危機意識を持っていましたし、後でお尋ねしますけども、尾鷲も夕張になるって、あなたがお存じのように夕張は38.1%ですよ、借金率、公債比率が。しかも、粉飾決算に似たような会計操作もやっていたんでしょ、600億円の赤字を抱えて。そういうことがありまして、あなたが再建団体というのは財政再生団体のことと同義でありませうが、あなた、最初に夕張になっちゃいましたけれども、伊藤氏かって危機宣言を出していただけないですか。いいですか、そしたらお聞きしますけど、尾鷲は、例えば今年2月下旬の毎日新聞のエコノミストによって、権威ある経済雑誌によって自治体の財政破綻のことが載っていますね。この間、四国へ行ったときも、この話も先様から発言があったりしましたけれども、その町よりも22.2%、三重県で一番

悪い四日市と同じところだったんですよ、四国のさぬき市は。そういう25%から、あなたは財政通を名乗ってらっしゃいますし、私も会計のプロとして認めていますよ。けれども、危機感をあおるという私の発言は、伊藤氏も再三この場で「夕張にならないように努力します」と叫んでいたのを印象的に覚えております。三重県の中でも四日市を筆頭に、伊賀市、名張市、伊勢市、悪いじゃないですか、尾鷲より。そして、大紀町、紀北町、大台町、御浜町、紀宝町、みんな尾鷲より悪いじゃないですか。真ん中ぐらいですよ、三重県の中で。そのときに、執行部の方、課長さん方を含めて、担当課の方が一生懸命、夕張になったら迷惑だとあなたがおっしゃる、それは給与も半減せんならんとか、いろんな夕張のケースは参考になりますか。尾鷲はワースト順に悪い順から言えば何番目ぐらいですか。市長、お答えください。あなたが危機感をあおるんだから、そういうデータを持っているんでしょう。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 何番目ということが私は問題じゃないと思うんですよ。

15番（中垣克朗議員） わからなかったら、大体そういうこともわからずして尾鷲はなるとおっしゃっているんですか。

議長（與谷公孝議員） 中垣議員、今、答弁中ですから。

市長（奥田尚佳君） だから、尾鷲だけが悪いわけじゃなくて、ほかの市町も今、財政難に苦しんでいるんです。この前も市長会の中で、今、拳がった名張市なんか、もう本当に以前から財政危機宣言、財政再建ということでマスコミにもどんどん上がっていますけども、本当に大変なんだという話を市長さんはされてましたし、先ほど御浜町という言葉が出ましたけども、御浜町も、古川町長もこの前お話ししたときも、財政が非常に逼迫していて大変だと。そういうことで熊野市との合併ということを経験してということで、この前も住民投票をされて、住民投票では合併ということになりましたけども、何番目とか、そういうことは私は重要じゃないと思うんですよ。

15番（中垣克朗議員） 大体それも知らずにおっしゃっているんですか。

市長（奥田尚佳君） いやいや、三重県の中で、かなり東紀州、それから今言われたように東紀州の地域、熊野は別ですよ。熊野は川上市長が7年前に市長になったときに、財政調整基金という純粋な預貯金ですけども、それが10億円だったものがこの六、七年で20億円にして、あと合併した中で30億円になっているんですよ。尾鷲市はというと、今、3億円しかないんですよ、財政調整基金、預

貯金が3億円しかないんです、皆さん。これも8年前、伊藤市長がなったときは10億円あったんです。だから、熊野市と尾鷲市は七、八年前、同じぐらいの預貯金があったんだけど、それが本当に全然違う形でその預貯金がどんどん切り崩されて、今、3億円しかない。そういう状況の中で、来年度には財政調整基金が19年11月の説明の中ではもう底をついていくという状況の中で、21年度から借入金の返済がどんどんふえていく。今、税収がそんなにない中で10億円を超える借金の返済が出てくるわけですよ。そういう中で、私は決して大げさなことを言っているわけじゃなくて、これは客観的データに基づいて申し上げているだけの話で、その辺のところをぜひ中垣議員、ご理解いただきたいというふうに思います。私もさっき申し上げましたけども、市長になっているんなデータを見てみますと、私自身も今、この尾鷲市の財政はどうなっていくのかなというふうな思いを持っている状況の中で、できるだけ破綻しないような形で持っていこうやないかと。職員の皆さんもかなりそういう危機意識を持ってやってもらっていますので、そういう方向で進まざるを得ないということでありますから、ぜひ中垣議員、そういうご意見もあると思いますけれども、今の尾鷲市の客観的に置かれている状況というのはそういう状況であるということをご理解いただきたいというふうに思います。

議長（與谷公孝議員） 15番、中垣議員。

15番（中垣克朗議員） 悲しいのは皆さん一緒なんですよ。危機宣言を意識しているのは、議員の人もみんな思っていますよ。それが夕張にならないためには、私はこういうビジョンを展開するという展開がなかったじゃないですか。今後、期待せざるを得ませんね。

あなたの発言の微妙なところは、やっぱりおかしい点が多々あると。1,827自治体の中で、このデータの後、合併したところもあるから、この2月、悪い順からいえば「いい市は」と覚えようとみんなに言っているんですけど、1,148番目なんですよ。1,147番目の自治体が尾鷲より悪いんですよ。三重県では真ん中ぐらいに悪いんですよ。それは危機感を持って大変なことにならないようにと前置きして頑張る、対策を練る、これは大事なことです。奥田さんはそういう感覚で言ってらしたと百歩下がって認識しておきましょう。本来なら「大体、尾鷲の公債比率、借金率は、この程度であるがゆえに」というような発言をしてほしいがゆえに、会計のプロであるあなたが数値のプロでありましょうからお尋ねしたんです。揚げ足取りやない物ねだりでも何でもありません

よ。

それでは、人権問題に立ち返って質問します。昨年、あなたは議会で、前教育長にある方が辞表を出したかと唐突に尋ねられたのでびっくりしました。あなたはなぜそんな残酷な発言をなさったのか。後日、前教育長にお伺いしたら、ご本当には至ってお元気で、全然ひるまずに頑張ってくれていますよとのことでしたので、ほっとした次第です。旧知の方でしたので、お宅にお尋ねして、今回このような質問をすることのお許しをいただきに参上してきました。本当は、もうそってしておいてほしいというお気持ちだったのかもしれませんが。本当に涙が出てきますよ、あなたの態度には、発言には。本来なら、一議員がその職責を俎上に上げて罷免を追及するような思い上がったことができるでしょうか。まさに人権じゅうりんそのものです。お尋ねします。もし市民が、市民がですよ、あなたがじゃないですよ、監査委員、副市長も含めてなんですけれども、例えば教育委員を解職するとしたら、リコールするとしたら、どのようにすればいいのか、市長、説明してください。あなたは解職要求に等しいことをおっしゃったんですよ。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） その辺のところは議員時代の話ですので、市政運営ということでお答えはします。この問題につきまして、私も今、記憶をたどってしまして、私は、教育ということに関しては、この前も教育長に申し上げたんですけども、えらそうに教育論を語るとか、そういうことはあまり好きじゃないんですよ。仲間内で確かに私の友人とかが教育はこうあるべきだとか、あああるべきだとか、いろんなことを言われる方は結構いますけども、私はそんな教育のプロでもないし、そういう意味で、あまり教育論ということに関しては語るということは好きじゃないということなんですけども、その教育委員の問題につきまして、かなりの市民の方から、今、教育委員は5人いて、1人欠けていますけども4人います。教育委員というのは、今の公立小学校、中学校のいろんな問題について、合議機関ですよ。そこがいろんなことを決める上で非常に大事なところであると。尾鷲市の教育を左右するところなんですよ、その教育委員会というのは、5人の合議制ですから。そういう中で、市民の方々からある教育委員に対して、ある問題がありまして、教育委員としてふさわしいのか、ふさわしくないんじゃないかということがありました。私はそれについて、ふさわしいかふさわしくないかということとはわかりません。わかりませんが、その方がいろいろいろんな方にも言われる。いろんな問題があって、教育長の方に辞表を出したらしいんですよ。

それを教育委員会の中で議論されたいんですよ。教育長の方から慰留をされたいんですけど、そういう話を私はお聞きしましたので、私はふさわしいとかふさわしくないという問題じゃなくて、実際に辞表が出ているという話が本当なのかどうかということを確認したという次第であります。

議長（與谷公孝議員） 15番、中垣議員。

15番（中垣克朗議員） いいですか、その方は母親でしょう。だから、自分のお子様のごことも管理が行き届かない者が教育問題に携われぬというニュアンスなんでしょう、あなたの発言は。212条の墮胎罪にも触れるようなときに、嫡出子でなくとも、民法779条に基づき、認知して法定代理人が勉学期間中、育児していますね。何の問題もないじゃないですか。私の同級生にもありましたよ。大学に行くときに赤ちゃんをおんぶして学校に行くというのが。偉いじゃないですか。本人が望むなら新しい生命の誕生を温かく見守ってやるべきではなかったんですか。どうなんです。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 答弁の繰り返しになりますけども、市民の中からふさわしくないんじゃないかという意見が多々ありました。そのことは事実であります。だから、そのことがふさわしいのかふさわしくないのか、それは置いておいて、私は先ほど申し上げたように辞表を出されたということがあったというふうにお聞きしましたから、それが事実だったのかどうかと。私は、だから、それがふさわしくないとは言っていないじゃないですか。それは、僕は教育というのはよくわからないし、いろんな意見がありますからね。ただ、ふさわしくないという意見がある中で、教育長の方に辞表を出されたということがあったというふうにお聞きしましたから、ほかの方の改選がありましたので、そのことについて事実だったのかどうかということだけを私は確認しただけの話で、かなりの方がこれを不満に思ったことは確かですけども、私自身はそれがふさわしいのかふさわしくないのかということは、私の中では、これは私としては両論あると思いますから、中垣議員も言われたように、私としてはどちらとも言えないと思いますし、事実かどうかだけを私は確認しただけの話でありまして、その辺のところを……。

（「議長、これは質問の通告と内容がちょっとずれていますから修正してください」と呼ぶ者あり）

市長（奥田尚佳君） そこだけご理解いただきたいというふうに思います。

議長（與谷公孝議員） 15番、中垣議員。

15番(中垣克朗議員) いいですか、教育委員を罷免する際のお話で、全然お答えがなかったですけども、これは、市民がする場合は有権者の3分の1の署名があって、副市長やら教育委員の方は首長さん、市長に提出します。市長は議会にかけます。その3分の2以上の出席のもとに4分の3の同意があったら可決するんですよ。それだけ重要なんですよ。あなたはそういう一部の人が、仮に100人おったら1人や2人の人が言ったら、そういうふうに反応するんですか。イソップ物語の口バの親子と一緒にですね。

人権問題で最後にもう一つ。この3月12日、議会最終日、「どうせ中垣さんは人権問題で訴えられるんさ」と放言を浴びたので、「何でわしが人権問題で訴えられんなんのや」と大声で私は反論しました。激怒して大声を出しました。なぜなんですか。その理由を明確にこの場で教えてください。それによつては私も言いたくなかったことを言いますよ。あなたは暴力団のことを前市長に言いましたけど、言いますよ、私も。この質問にお答えください。何で人権問題で私は訴えられんなんのですか。個人での問題じゃないですよ。あなたの発想がすべてでそういうことを言ってきますが、困るんです。

議長(與谷公孝議員) 中垣議員、ちょっと個人的な関係のある、まあ、人権の問題でしょうけども。

15番(中垣克朗議員) この私に対する発言は本当のことでしょう。先ほどの発言じゃないですよ。何で人権問題で訴えられるんやとって放言なされたんですかとお尋ねしているんです。人権問題で私が何で訴えられる。韓国人とも仲いいし、オーストラリア人の友達もおるし。

議長(與谷公孝議員) 市長。

市長(奥田尚佳君) 通告に基づくことともちょっとかけ離れていると思う。

(「通告と違うでしょう。(聴取不能)くださいよ」と呼ぶ者あり)

市長(奥田尚佳君) 簡潔に申し上げますと、当時、中垣議員が人種差別、そういう発言をされていますよね。そのことについて、ある方が訴えるというような話もありましたので、そのことを私は申し上げたと。言葉のやりとりの中で多分出たと思うんですけど、そういうことであります。

(「個人のことはやめて」と呼ぶ者あり)

市長(奥田尚佳君) そうですね、もうこれ以上、私はいろいろあるんだったら法廷の場でやられたらどうかということでもあります。

議長(與谷公孝議員) 15番、中垣議員。

15番(中垣克朗議員) 中垣さん、ごめんねと言うたら何も無いのに、こういうふうに関き直る。困った人ですね。この場で教えてくださいと明確に言わなかった。何で私が、韓国人の友達もありますよ。中国人の友達もありますよ。オーストラリア人、1人しかないけど結婚式にも招かれて行ってきましたよ。外国人を差別したことはありませんよ。日々生活の中で、市民の方に差別したことはありませんよ。僕は寝られないんですよ。いいですか、12月26日のことといい、あなたは謝ることができない性格なんですね。ちまたには憤怒の風も吹く。言葉で人の心を傷つけるなかれ。

公用車についてお尋ねします。市長は、市長用の黒塗りの公用車をなくしますと言われていますが、本当に市長用の公用車はなくなりましたか。利用していませんから、なくなったと言ってもあれなんですからね。

追加して、先ほど名誉棄損のことを触れましたので、「公然事実を摘示し人の名誉を毀損したる者は、その事実の有無を問わず3年以下の懲役もしくは禁固または1,000円以下の罰金に処す」とあります。1,000円以下の罰金は、罰金等臨時措置法によって200倍だから20万円ということで、罰金なんかは、あなたは痛くもかゆくもないでしょうけどね。禁固刑以上になったら市長をやめなければならないんですよ。私は長男の同級生であるあなたをそんなふうに思っていないですよ。この議会には、父兄会と言っていいほど4人の議員のお子さんがあなたと同級生なんですね。

議長(與谷公孝議員) 中垣議員、申し上げます。12月26日の件にいたしましても、これは全員協議会の時だったと思います。閉会してからの話ですから、個々の問題として、この場にはふさわしくないと。よろしく。

15番(中垣克朗議員) 閉会云々より、寝られないんですよ、あなたにも相談して、そしたら何かへらへら笑っていただけだったという回答しかいただいてないんですからね。ごめんと一言言ったら私も気が済むんですよ。

次に移ります。公用車についてでしたね。市長は黒塗りの車を灰色の車にかえて運転手つきで市長用の車として乗っていますね。これはどういうことですか。悪いとは言っていないんです。私は公用車は使った方がいいと言っているんです。確かに黒塗り黒塗りと言うけれども、黒塗りの車は利用しなくなりましたね。しかし、市長用の公用車はありますよね。市長用でなければどんな公用車なんですか。あなたの詭弁ということじゃないですか。前市長の車は走行距離も20万キロを超え、がたがたです。しかし、財政難から買いかえることができないとご本

人はおっしゃっていました。がたがたの車よりは今の車の方がいいですね。これは明らかに皮肉で言っているんですよ。あなたはなぜ各市長、町長は黒い車に乗っているか考えたことがありますか。私は礼服と同じだと思います。葬式に行くのに赤い服で行く人はいません。黒塗りの車は改まった場所に出席するための、国、県、市や町に対する礼儀だと思うのであります。それが一般常識だと思いますが、この点についてあなたはどう思っていますか。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 私は、黒塗りの市長用公用車をなくすということで、就任以来、その黒塗りの公用車は乗っていません。担当課の方にも速やかに公売にかけてくれと就任早々申し上げました。ただ、6月議会がありますから、6月議会の中できちんと説明した上で速やかに手続をとってやられた方がよろしいんじゃないかということでありました。ですから、今後、委員会の方できちんと説明させていただいた上で公売等を図っていきたいというふうに考えております。

確かに議員言われるように、礼服と言われれば礼服なのかもしれませんが、ただ、御浜町にしたって黒塗りの公用車を公売にかけて、そして白い車に乗っていますし、ハイブリッドだったかな、環境に配慮ということだと思んですけど、隣の紀北町にしても、大きな黒塗りの公用車は今、乗っていませんし、ワゴン車でいつも町長は公務で動いています。鳥羽市なんかもそうです。鳥羽市なんかはもう議長用の公用車も黒塗りの公用車はなくて、鳥羽市においてもワゴン車とか、そういうものを職員の皆さんと取り合いしてやっている。ですから、財政の苦しいところというのは、そういうふうなことを今、変換にかかっていると。確かに議員の言われることも一理あると思いますけど、やはり時代が変わってきたんじゃないかなと私は思うんです。ですから、私はこの黒塗りの公用車は委員会の方できちんと説明させてもらった上で公売にかけたいというふうに考えております。

議長（與谷公孝議員） 15番、中垣議員。

15番（中垣克朗議員） これは時代の流れとおっしゃるようなご発言ですが、私はそうは思いません。あなたはあたかも黒塗りの市長用の公用車を贅沢の象徴であり悪の象徴であると、そういうふうにお決めつけになっているんじゃないかと思えます。それで、黒塗りの車から灰色の車に乗りかえたただけなのに、公約は守りましたと言えないんじゃないかと思うんですが、ただ単に古い車を使いたくなかっただけですかと皮肉られてもやむを得ないところじゃないでしょうかね。

3年前、西東京市で、市長専用車廃止で当選し、全国で話題になりました。通勤には使わないのは公約だからいいとして、そこで思い出しましたが、伊藤さんも最初は通勤には使ってなかったんですよ。僕ら近所の人が「はよう行って仕事せんかいな」と冷やかすもんだから乗っちゃって、また、あなたに言われてから、かわいそうに体が悪くても歩いて行ったりしたんです。

西東京市長は、礼儀だからといって黒い公用車は使用しています。僕はきのう電話で聞いたんです。ただ、はっきり市民に約束していることは、その黒い車を市長専用ではなく、副市長、教育長、監査部課長が消化のスケジュールに従って使う共用車、公用車と言わず共用車と銘打っております。あなたに投票したというある水産業者は、運転手つきの公用車に乗るのは公約違反で問題だとおっしゃるので、市長職は多忙なので公用車は必要ですよと申し上げておきましたが、西東京のように共用車にすれば問題の抵抗が少し和らぐのではないのでしょうか。黒塗りの市長車廃止という公約の日本語は、やはり小手先の言葉のロジックと言われても仕方ないと思います。現に運転手つきの公用車に乗っているんですからね。

次に、移る前にご意見ありましたら、どうぞ。ありませんか。

議長（與谷公孝議員） どうぞ続けてください。

15番（中垣克朗議員） 次に清掃工場についてお尋ねします。清掃工場の壁が落ちただけで修理に随分かかると思います。今まで何回か同じような事故報告があり、所管の委員会で説明を受けたりしましたが、その際は四、五日程度で直っていたんですね。壁が落ちて一つの炉でやっているんですね、今。これは、もしだめになったときはどうなさるんですか。どこへ頼むんですか。その点、お答えください。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 確かに、今、2号炉がとまっているということで、1号炉を、4時間程度と私は聞いておりますけども、延長してやっているということを知っています。そういう意味でも、この1号炉がとまった場合は、私も広域ということを考えて、隣接する市町とかにお願いしないといけないのかなというふうに考えております。そういう意味でも、今、2号炉の修理というものを速やかにやる必要があると思っていますし、こういう不安があるということは避けないといけないと思っていますので、そういう意味では、かなり施設も老朽化していますから、広域で新しいものをつくるということも、どんどん今後、隣の市町との検討を進めていかないといけないなというふうに思っております。

議長（與谷公孝議員） どうぞ発言を求めてください。

15番、中垣議員。

15番（中垣克朗議員） 今、紀北町に頼んでいくというような構想はないんでしょうかね。とにかく清掃工場は全体に老朽化しておって、補修工事が財政難からおくれていると認識する中で、1炉の運転は協力避けたいと考えるのが市民の安心・安全を守る市長の責務だと思いますよ。今までだったら随契なんていう言葉を盛んに使って攻撃しておりましたが、そのよしあしは私はわかりません、入札でしょうが随契でやろうが。ただ、問題は、炉が落ちた、とまった、早く対応しなければならぬ、お隣の紀北町に頼んだら、RDFなんかでする場合には非常に困難な状況になって、1週間や今までできた5日ではできないことが予定されますね。そう簡単に紀北町のRDFでは処理できませんよね。固形燃料をつくるために、くぎ、空き缶など燃えないもの、燃えるもの、ロープなんかは取り除かなくてはならないから、5日もすれば直っていたものが、やれ入札じゃ、やれ何じゃ、それは財政的に節約できればいいことで、市民のためにもなることなんですけれども、とにかく早くしないと、片方でぐあいが悪い、二つしかないのの一つはだめ、もう一つだめになったら、これは莫大な予算がかかるということになっちゃうんじゃないんでしょうか。市民の安全・安心がおざなりにされないようお願いします。一言。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 今、中垣議員が言われたように、私は紀北町は無理だと思っています。だから、私は紀北町に頼む気はありません。今、言われたように、RDFという形で施設の違いがありますから紀北町は無理であります。そのことははっきり申し上げておきます。

それで、今、随契の話をされましたけども、ついでに申し上げておきますと、2号炉のバグフィルターの工事が、この前、入札がありました。今、県も取りかかっているところですけども、以前でもこの議会の中で非常に議論があって、随契はよくないと、入札にできるところは入札にすべきであるという話が中垣議員もご存じだと思います。それで、私はとにかく今回の就任早々、この案件が上がってきましたので、随契じゃなくて入札にということで担当の方に指示しまして入札をやっていただきました。その中で、結果的にはこれまでとっていたところと新しく入札でとったところとの差額が700万円近くあったということで、やっぱり入札をして、今、この財政の厳しい中で700万円近いお金が浮いたわ

けですね。非常に助かったと。だったら、もっと早い段階で、例えばこの工事というのは1年に1回じゃなくて2回とかありますから、これは10年前からこの入札をやっていたら、どれだけの金額になっているんだろうと。もしかしたら、これは試算したら1億円を超えるぐらいの節約ができたんじゃないかというような気がしております。ですから、そういう意味では、私は今後もどんどん随契じゃなくて、できるところは入札でやっていきたいというふうに考えております。

それで、中垣議員は何度も何度も安全・安心ということを言われますけど、私もその気持ちは一緒でありまして、多分その辺は変わらないと思うんですよ。住民サービス、きちんとした安心・安全、きのうの水の話じゃないですけども、安心・安全ということがやっぱり大事ですから、市民の生命・財産を預かる市として、行政サービスということはきちんと不安のないような形であるべきだと私は思っていますので、どうかその辺のところはご理解いただきたいというふうに思います。

議長（與谷公孝議員） 15番、中垣議員。

15番（中垣克朗議員） 今までの諸問題はもっともっとたくさんあるんですけども、裁判で法廷でなんて開き直られちゃいましたけれども、お望みならやっただけいいんですよ、お望みなら。これは、あなたが中学校3年生のときに使っていた公民の教科書、東京書籍の教科書。一緒ですよ。この中に地方自治のこと、それから結婚適齢のこと、いわゆる教育委員を罷免したりするような問題のことが載っていますからね。もう持っていないようでしたらお貸ししますよ。「批判なきところに進歩なし、反省なきところに飛躍なし」、これは私の若いころの哲学ノートの書き出しであります。既成概念を打破するためには、それ相応の理念・ビジョン、そういったものを提示し、具体化していくのが常識だと思いますよ。

最後に、三木里八十川の土砂問題についてお尋ねします。市長は、住民に安心を与えずに不安をあおり立てているようにしか思えないところがあります。白いウナギ、ただれたヒラメを見た、4トンの産廃が埋められていた。きのうの答弁では、たった3日間で2トンの産廃が見つかった。油まじりの茶色い水が出ている。産廃という言葉は、まず正しいんでしょうかね。土砂の中からごみが見つかったという表現を、わざと住民が不安がるように産廃と言っていないんですか。あなたが見たとき、怖いと言ったのか気持ち悪いと言ったのか覚えていませんが、油まじりの茶色い水を分析したのですか。どんな成分があって、身に危険であるということを分析したんですか。まず、それをどうぞ。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） さっきヒラメとかどうのこうのという話がありましたけども、私はヒラメとかそういうことを言っておりませんのでね。それは婦人会の方が、私は確かに婦人会との会合の中で、5月19日の月曜日だったかな、朝、婦人会の役員の方との会合の中で確かに話がありました。それで、三木里の婦人会長の方から変形したウナギとか死んだウナギとかを見たことがあるのかという話があったもんで、私は見たことがありますよと、それを申し上げただけですよ。ヒラメとかという話は一切なかった話で、ウナギは確かに八十川で泳いでいるものも見たことがあるし、ひっくり返って死んでいるウナギを見たことがあります。それが因果関係はどうかわかりませんが、見たことがあるかと言われたから、私はウナギの死んだのは見たことがありますよと、それだけ申し上げたことでして、前後のいろんな話の中で、私はきのうも申し上げたように、婦人会の方々が環境環境と言われている。きょう、持ってこなかったですけども、4年前の婦人会長も、今後も自然や環境というものを守っていかないといけないんだということを広報に書いています。それで、去年も前婦人会長が私のところに来まして、婦人会の活動をわかってくれということで来られました。私は、環境活動に配慮したいろんな活動をされていることは、もう十二分にそれは敬意を表するところであると申し上げて、ただ、今、それだけ環境環境ということで力を注いできて、三木里のきれいな海水浴場がある、きれいな海があり、きれいな川があり、そして今、北輪内中学校跡地を体験ということでグリーンツーリズムという形で、あそこに自然や環境ということをやって人を呼びたいんだということで今、進んでいます。これも云々千万円の予算です。それに対して補助もありますけども、市もそれなりのお金を出さないといけないと。ですから、私は婦人会長に申し上げたのは、グリーンツーリズムを、それはやりたいでしょう、地元としてはね。まだ中身は詰めていないということですけども、グリーンツーリズムをやるんだしたらやるのも結構。ただ、環境環境と言われるんだしたら、きのうも申し上げたように、この3日間の工事が始まっただけで2トンもの大きなタイヤやら金属片、それからいろんな網やら家庭用の台所で使っているような廃棄物とか、あらゆるものが出てきているわけですよ。そういうことが前にも、2年前に問題になったときに、一山の中から10トンもの廃棄物等が見つかった。それで一昨年の12月にちょっと試掘しただけですよ。それでもタイヤやら金属片やら、あらゆるものが出てきた。これについては本当ですよ。14トン出てきているんだから、こ

これは本当の話なんです。うそつきじゃありません。写真を持ってきたらよかったな。これは県に聞いてもらっても結構ですよ。きちっとしたデータが出ていますから。だから、14トン出ているわけですよ。この3日間でも2トン出ている。

(「時間がないので簡単にご説明してください」と呼ぶ者あり)

市長(奥田尚佳君) はい。だから、そういう状況の中で、茶色い油分を含んだ、きのうもお見せしました、日曜日でも月曜日でも私は見に行きましたけれども、あらゆるところから油分を含んだ茶色い水がどんどん出ている。これについては県の検討委員会の中の宮岡先生が持ち帰ったんですよ。持ち帰ったけど、今のところその返答がないんです。なくて、宮岡先生は水源地がもっと下だったら自分の息子にはこの水は飲ませられませんと検討委員会の中ではっきり言われた、そのことは事実なんです。皆さん、事実は事実として認めてほしいんですわ。事実なんだから。だから、それは事実だから、私は婦人会の方に、そういうことがあるわけだから、グリーンツーリズムをやるんだったら、まず八十川問題を、きっちりとこの問題に対して取り組んでくださいと、そういうふうに去年も申し上げたし、この前も申し上げた次第であります。

だから、その辺のところ、婦人会長がこういうことを言うたとか、そういうことがこの前、新聞に載っていましたが、僕は暴言を吐いたか吐いていないかと言われることは、ちょっと私の言葉足らずなところは、きのうも私は率直に私の意図が伝わらなかったことは率直におわびします。本当に申しわけありませんでした。そこは申しわけありませんけども、その辺の、私は今の三木里を何とかしたい、このまちが、今、兄弟でも親戚でもこの問題でけんかして、こんな問題でけんかしている状態、これを僕は速やかに解決したい。だから、そういうことを思っていますので、私は言葉足らずで申しわけなかったかもしれませんが、私の意図するところだけはぜひわかっていたいただきたいというふうに思います。

議長(與谷公孝議員) 15番、中垣議員。

15番(中垣克朗議員) ヒラメのところは適切でなかったら撤回しますね。これね、小さいときにそういう魚の死骸なんかは私らもたくさん見ましたよ。阿田和の川なんかは、この辺の川よりうんときれいだったんですよ。いいですか、私の今お尋ねしたことは、茶色い水を分析したんですか。それだけ教えてください。

議長(與谷公孝議員) 市長。

市長(奥田尚佳君) 本当に不気味なんです、きのうもお見せしましたけども。

(「分析したんですかって」と呼ぶ者あり)

市長（奥田尚佳君） それで、その茶色い水を宮岡先生は持って帰りました。持って帰りましたが、そのことのきちんとした説明って、いまだないんですよ。だから、そこは私は早急に県にも確認したいと思っています。

議長（與谷公孝議員） 15番、中垣議員。

15番（中垣克朗議員） やはり市長たるもの根拠を持って発言すべきで、主観的に物事を見るのではなく、住民に安心を与えるべく客観的に物事を考え行動すべきであります。水が茶色いから汚れているとは限りません。しっかりとした裏づけを持って発言をすべきであります。もうお答えになったから、これは飛ばしますけどね。

今、問題になっている船津川、この下流には白石湖、小山、尾鷲湾につながっています。私たちは生まれてから白石湖のカキ、小山で釣ったキス、尾鷲湾で釣ったガシを食べています。船津川が、船津川の土砂に市長がおっしゃる産廃、有害なものがあったのなら、その水、その土砂で生息するプランクトン、ゴカイを食べて大きくなったカキ、魚を食べた私たちに影響が出てくるんじゃないですか。既に影響が出ているんじゃないでしょうか。あなたは白石湖のカキを食べますか、尾鷲湾の魚を食べますかなんて、もう時間がないから、そこらは省略します。

いいですか、あなたね、先ほどちょっと言ったので、あなたは婦人会が言っていると言うけど、奥田尚佳活動報告第13号、平成19年7月、これはもうれっきとした証拠物件ですよ、裁判になったら。だから、軽々に裁判を受けるような顔をしないで、ちょっとごめんねと、それで通じるんですよ。三木里の奥さんかって、婦人会長さんかって、今、婦人会長とおっしゃったから、どういう方かははっきりとご存じありませんけれども、これを見たら婦人会活動なんかやってやれるかと言う前に結束して怒ってきますよ。これはあなたの活動報告じゃないですか。当然、政治団体の届けも出しているんでしょう。でなくて、こんなことをつくられては困るんです。

市長、いま一度土砂問題を客観的に見てください。きのう、田中議員は、尾鷲湾のしゅんせつの土砂は黒くて見てくれが悪いだけと言っていました。私たちはその見てくれの悪い海底を持つ尾鷲湾で育った魚を食べ、そして、それを売って生活の糧にしている人がおります。見てくれで判断するのではなく、田中議員も100万分の幾つとおっしゃっていましたが、目に見えない有害物質があるのかないのが重要だと思います。いかがですか。本当に怖いのは、あなたがいう産廃、ごみじゃないんじゃないんですか。見てくれが悪いと、確かに別の意味での

問題が出てきます。いろんな人がキャンプに来てほしいな、そういうことに弊害があるかもしれません。

それと、今、お尋ねしている八十川の水の有害物質の濃度は大丈夫なんですか。土砂から出ていた水は大丈夫なんですか。また、土砂自体はどうなんですか。何が基準値を超えているんですか。そういったことを分析して発言すべきじゃないんでしょうか。調査の結果、科学的調査をしていないものに断定できませんね。あなたの確信犯的な発言は、断定は何を根拠になさっているんですか。分析しているんですか、していないんですか、それを一言だけ。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 中垣議員は現場を見に行ったことがあるのかわかりませんが、私もきのう申し上げましたように、2年前の海開きのときに見に行ったときに、水源地の上がものすごいごみだったんですよ、悪臭はするし。そこに数カ月間、尾鷲港のしゅんせつ土砂が置かれておって、それが、私が見に行ったときには下へ持って行っていましたが、それが盛り土に使われる前の状態で、その一山から10トンもの産業廃棄物とかが見つかったわけですよ。これは事実なんですよ。

（「撤去しとるのに問題かと聞いとるんです。分析したかと聞いたんです」と呼ぶ者あり）

市長（奥田尚佳君） それで、さっき申し上げたように、2年前の12月のときに試掘したときに4トン、これも金属片やらいろんなものが出てきた。それでさっき申し上げたように、この3日間でもまた2トン出てきたという状況なんですよ。そういう状況の中で、確かに今、申し上げたように、水質基準は今のところ大丈夫であります。大丈夫じゃないと大変なことですからね。ただ、私が申し上げているのは、きのうも申し上げたように賀田湾の土砂とかいろんなところのものが上流に埋まっている可能性は十分にある。これは県がここに何が埋まっているということははっきり言いませんので、十二分に水源地の上に埋まっている可能性もあるんです。そういう意味で、宮岡先生も、あのときも鉛の話だったと思いますけども、確かに基準値の3分の1ぐらいやと。ただ、それでも鉛なんかは体内にどんどん堆積されていきますので、そういう意味で自分の子供には水源地が下だったら、今の状態やったら飲ませられませんということをはっきり言われたわけですよ。ですから、そういうことを言われるということは、水質基準といっているものはありますけども、ただ、それは長期間かけたら有害なものになると

いうことを言っていることだと思います。

議長（與谷公孝議員） 市長、質問者の質問に簡潔にお願いします。

市長（奥田尚佳君） ですから、そういう状況で、検査の方は今のところは市でもやっておりますし、県の方でも今後2年間やっていただけると。これをまた今後、今、三者協議会をやっておりますので、その中できちんと詰めないといけないなと思っています。ですから、とにかく、きのうも申し上げたように、三者協議会がこの前スタートしました。三者協議会を私は否定しているわけじゃなくて、あれは地区会がきちっと承認したものですから、私はそれをやっていこうと思っています。問題なのは、きのうも申し上げたように、第1条のところで検討委員会が、例えば大きいごみを取るとか、それから市と新しい水脈を探せと協議せよというようなことを言われています。そういうことをきちんと真摯に受けとめて県は対応しなさいということ、検討委員会の6カ条がありますけど、その第1条でうたっている。第5条でまたさらにきちんと新しい水脈を協議しましょうということになっている。だから、このことを私はきちんと今後、地区会と、区長も了解していただきましたので、市と一緒に県と協議していくということ、了解していただきました。これはきちっと了解していただきました。事実であります。

議長（與谷公孝議員） 市長、申しわけない。きのうの答弁とも重複していますから。

市長（奥田尚佳君） わかりました。ですから、私はそれに沿って、皆さん、いろいろごちゃごちゃ言われると思いますけど、ぜひ私は何とかこの問題を解決するために取り組んでいることですので、ぜひ、この三者協議会を見守っていただきたい。ぜひ、その辺をよろしくお願いしたいと思います。

議長（與谷公孝議員） 15番、中垣議員。

15番（中垣克朗議員） 分析しているかというのに、長々ときの中垣議員におっしゃったことをまたさらにお聞きするわけにはいきませんよ、時間がないんですから。

いいですか、私も幾つか飛ばします、時間の関係で。あなたはさっき鉛と言いましたけど、水俣病を連想させるじゃないですか。次から次へと鉛がわき出してくるんですか。釣り針のおもりは僕らの小さいときは鉛だったんですけど、今は違うんでしょうかね。釣り道具の知識も私はないですけども。鉛ってたくさんありますよ。だけど、そういうことじゃなくて、鉛があったのなら、これは危険な数値である。すべてが数値ですよ。あなたは会計のプロとして数値のプロなん

でしょう、結局は。この財政、向こう行き夕張にならないためにこうするというビジョンを、私は具体的にはお聞きしてないんだけど、そこらが皆さんが危惧していることじゃないんですか。伊藤氏よりも後退しているんじゃないんですか。伊藤氏の方がはっきり汗かきながら頑張ろうとしていたじゃないですか。まあ、それはよろしい。

知識人で教養人である指導者を持つ市民は幸甚であります。知識人であっても、教養や常識や倫理観のないリーダーを持つことは極めて不幸であります。あなたがそうだとやっているんじゃない、皮肉を言っているだけです。いつの世も、すぐれたリーダーはまれだと思いますが、会計のプロを自他ともに認める市長は、もう少し謙虚になられて、行動力、分析力、洞察力、判断力を発揮なさって、伊藤さんが入退院を繰り返していますけれど、伊藤さんの悲しみを乗り越えて、文字通り東海一の市長に育ってください。美しい日本有数の三木里の海水浴場で、地域の人が仲よく盆踊りの輪ができるように祈っています。

終わります。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） まず、鉛の話なんですけども、確かに私も小さいころから釣りをやっています、おもりをつけるときにかんでつけたこともあるんですけど、昔はそういう議論というのはあまりなかったと思うんですけども、中垣議員、最近になって鉛というのは、かなりこれは発がん性もあって有害であるということと言われています。鉛というのは体に入ると外に出ていかないらしいですね。どんどん堆積されていくと。そういう意味でも非常に怖いということで、先ほど申し上げたように、宮岡先生が言われていたということがありまして、そのことを十分わかっていただきたいというふうに思います。

それで、前伊藤市長は汗だくで頑張っておられたということであります。確かにその点は私も敬意を表したいと思います。そういう意味で、私も使命感を持って市長選に出まして、皆さんのおかげで市長にならせていただいたんですけども、とにかくこの4年間は私の力を十二分に発揮して全力投球でやるというふうに決めています。確かに議員を4年間やっていて消化不良のところも多々あります。そういう意味では、この市長という重責を担うことになりましたけど、この4年間を私は命がけでやろうと考えております。ですから、決して守りに入ることなく、責任重大ですけども、とにかく失敗もあるかもしれませんが、失敗をおそれないで尾鷲市のために全力でやりたいというふうに考えておりますので、ぜひ

この4年間をどうか議員の皆さんに見守っていただきたいというふうに思います。

以上です。

議長（與谷公孝議員） 時間が超過しましたから簡潔にお願いします。

15番（中垣克朗議員） 市長のきのうまでの行動日程を全部持っています。100万円の交際費がありますね。そういうことをとやかく指摘するんじゃなくて、十分にお使いになって、公用車というのが嫌だったら共用車、副市長さんが見えたら教育長さんなんかとご一緒に行かれる、そういう共用車をフルに活動して、予算をじゃんじゃん取ってきてください、尾鷲にないんだったら。でも、緩やかに交際費が下がりますって市長公室から資料が出ていますよ。とにかく頑張ってください。それじゃ、もうお答えはいいです。お答えは要りません。頑張ってくださいということで、以上です。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） さっき言い忘れたんですけども、私の活動報告の会報のことを言われましたね。その活動報告の中に、今、婦人会が動いていないことに対して私はなぜなんだろうと、私は尾鷲市の七不思議の一つであるということを書いてあります。これは本当に私は不思議でならないもんですから、そういうふうに書かせてもらいました。それが問題であったなら何なりとまた別の公の場で議論していただいても結構ですので。

（「でも、あなたのこれは証拠物件ですよ」と呼ぶ者あり）

市長（奥田尚佳君） 証拠物件じゃなくて、私はそれは自信を持って書いていますので、私の思いですので。それが公の場で問題になるということであれば、私は公の場で幾らでも話し合いたいと思います。

議長（與谷公孝議員） 以上で中垣議員の一般質問を終わります。

ここで休憩いたします。再開は午後1時からといたします。

〔休憩 午前11時24分〕

〔再開 午後 1時00分〕

議長（與谷公孝議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、10番、端無徹也議員。

〔10番（端無徹也議員）登壇〕

10番（端無徹也議員） 通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

きょうまで先輩議員の一般質問を聞いていてですが、奥田市長さんの言うておられることは、どの議員さんに対してもよく似通ったところがあるなというのが

率直な感想です。そのもとになるところは、尾鷲市は財政難で、この財政危機の折、何とか議会、市民、執行部、尾鷲に住んでおる人みんなすべてが「何とかしよらいよ、財政難やでな」というのがもとに基本になっているように私は感じました。そこで、私自身の一般質問に入る前にちょっとだけ言っておきたいことがあります。それは、きょう、尾鷲市より尾鷲市の名前が入った「市長就任のお知らせ」というはがきが届いていました。奥田市長さんが市長に就任されて、かなり時間的にはたっているように思います。その奥田市長さんが「財政難やでな」と言うのは裏腹に、あのはがきの重要性は一体どこにあるのかな。それがきょうまでほかの議員さんの一般質問を聞いていて、奥田市長の答弁を聞いていて、うーんと私が思ったところです。

さて、本題に入らせていただきます。私の通告は二つの質問です。一つは、公共建物の耐震化について、もう一つは、まちづくりについてでございます。

まず、公共建物の耐震化について、奥田市長に質問いたします。奥田市長さんは、公約にもあるように、小・中学校の耐震化、これは非常に声を大にして切実に訴えております。しかし、僕自身はそれで本当にいいのかな。学校耐震化、それは大事です。子供の命、将来の尾鷲を担うであろう命を守る、そのための学校の耐震化、うん、実に大事。しかし、まだ具体的な話がなされていない、それもよくわかっております。しかし、一体どのような財源でどのようなことをするのか、これも今からの委員会で指し示されていくものと思います。ただ、私が一つ考えるのは、学校の耐震化ばかりが先行しておってよいものだろうか、優先順位というものをつけるのであれば、学校以外にもつける場所はあるんじゃないかな、そのあたりを奥田市長さんにまず1点問いたいと思います。

もう一点ですが、まちづくりについてです。まちづくりといっても広く、いろんなことがかかわってまちづくりになると思いますが、現在、奥田市長さんの考えるまちづくりについて、よければ具体的に答えていただければと思います。

以上が私の1回目の質問になります。よろしく申し上げます。

議長（與谷公孝議員） 市長。

〔市長（奥田尚佳君）登壇〕

市長（奥田尚佳君） 端無議員の質問にお答えしたいと思います。

まず、冒頭に言われましたはがきの件ですけども、私もおっしゃるとおり悩みました。8年前、伊藤市長が初めて就任したときにも出されているということで、各市町からも議長が交代したりしたときとか、市長がかわったときも当然

そうですけども、はがきが来るということがありまして、8年前の資料を見せていただいて、大分絞ったつもりですけど、それでわかっているところは出さなくてもいいんじゃないかという気もありました。でも、絞った上で出したところ、出さなかったところがあったら、また、おれのところは来ていないじゃないかとか、私のところに来ていないよという話も出ますので、今回は最小限のところでも失礼のないように出させていただいたということでご理解いただきたいと。確かに、そうって端無議員のように言うに言っただけということは非常にありがたいこととして、今後、そういう財政再建ということで、そういうことを踏まえてきちりやっていきたいと。本当にありがたいお言葉ありがとうございました。

それで、まず耐震の話なんですけども、学校優先でいいのかというお話だったと思いますけども、今、公共の建築物ですけども、非木造2階建て、または200平米超における尾鷲市所有の公共施設というのが88棟ありまして、そのうち43棟が耐震についてはもう万全であるという状況でして、あと45棟につきましては、補強可能な部分もありますけども、まだ耐震診断をしていないところとかは多々あることは事実であります。そういうところで、そういう意味で端無議員が言われるように、確かにこの本庁舎もまだ耐震診断をしておりませんし、とにかく今、学校の耐震ということで進めておりますけども、もちろんすべての建物において耐震性があるということでは、これは本来そうあるべきですから、学校の耐震ということも進めながら、同時にそういうことも考えていきたいというふうに考えております。

それから、今後のまちづくりに対する考え方ですけども、私は、やはりこれからの尾鷲市というのは、いろんな意味でまちづくりということを考えていかないかん。きのうの話の中で高速道路もできてくるという状況の中で、この尾鷲市というところについて、どういろんな魅力をつくって、いろんな方に来ていただいて、滞在時間もできるだけ長くおれる体制というのは十分大事だと思います。そういう意味では、私は公約の中でも入れさせてもらいましたけども、単なる目安箱じゃなくて、皆さんの市民の方々のまちづくりに対する意見をいろいろと、今、やっぱりアイデアだと思うんですよね。高速道路も整備されてくる、いろんな基盤整備が大体できつつある、そういう状況の中で、これからどうそれを活用していくか、そういうアイデアをどんどん出していかないといけないと。そういう状況の中で、ですから、まちづくり工房とかご意見番工房というものを私は公約の中にも入れさせていただきました。今後、この尾鷲市の中でいろんな課題があり

ますけども、マスタープランの作成とか、そういうところにおきまして、総合的に今後のまちづくりということを考えていきたいというふうに考えております。

議長（與谷公孝議員） 10番、端無議員。

10番（端無徹也議員） では、一つずつさらに奥に突っ込んだ話にしていきたいと思います。

公共建物の耐震化ということで、88の施設があって、43の耐震化はオーケーで、45が耐震診断がまだというお話は了解しました。それで、今ここで奥田市長さんの優先順位、学校が優先順位でいうと一番なのか、それとも本庁舎の耐震化が優先順位でいうと1番なのか2番なのか、そのあたり、どうお考えですか。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 優先順位ということでありまして、もちろんこれは両方大事なことでありまして、今週における国の法改正がどうなるのか、その辺を見きわめないといけないんですけども、その辺は、ですから学校の耐震ということがまず今、動いていますけど、それと並行して、16年度にはその防災センターを建設しまして有事の際に対応するというので、いろんな意味で動いていますけども、同時並行という形でお考え願いたいと思いますけども。

議長（與谷公孝議員） 10番、端無議員。

10番（端無徹也議員） 同時並行という言葉が、今、聞き出せたんですけども、実際、この財政難というのを考えた場合、学校だけでもまかりならんというところで、じゃ、同時並行で本庁舎の耐震化も進めていくのかということにつながってしまいますので、このあたりはもう少し聞きたいんですけども、私が調べたところによりますと、各自治体における耐震化の優先順位というのは大体決められているところが多くて、すべての自治体を調べたわけではないんですけども、大体優先順位に一番最初に耐震化せなあかんよというところは、本庁舎と消防署というところが非常に多かったです。その次に学校施設が優先順位2位ということで来ています。3番目に避難所となる公共の施設、4番目に多数が利用する施設、これが有事の際に避難所になる可能性もあるからということだと思んですけども、すべての自治体を調べたわけではないんですけど、大体主な自治体では、もっと進んでいるところでいえば、きちっと優先順位をつけた上で、その予算の配分だとか計画というのが立てられているように思います。

私が考えるには、尾鷲市における学校の耐震の診断というのはすばらしいものができています。資料でいただきましたけども、これもまたほかの自治体には類

を見ないような、詳しくここの部分が耐震はどうだ、ここの部分は結果的に想定される地震が来たときに崩れるかもしれないよ、そういうところまで突っ込んだ内容の資料ができています。それは、恐らくほかの自治体、少なくともこの東紀州の中では誇れるような診断結果として出ていると思います。今は、その診断結果をもとに、じゃ、どうしていくかというところが、今後、奥田市長さんに期待されているところだと感じるのですけども、では、今、同時進行でと言われました、例えば本庁舎とか消防署、何で大事かというのは言わずと知れていると思います。ですので、例えば尾鷲市におけるこの庁舎、尾鷲市にある消防署、この二つの例えば耐震診断とか耐震化計画とかというのは、再確認になるかもしれませんが、現状どうなっているかというのをお答え願えませんか。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 端無議員の思いというのはよくわかります。私もこの本庁舎、消防署、学校施設、それから避難所、それから多数利用施設、これはすべてやりたいですよ。これは1日も早くやるべきだと私は基本的にはそう思っています。そういう中で、またお金のことを言うわけじゃないですけど、私だってすぐやりたいんですよ。やりたいけども、やれないんですよ、今。今の財政を考えたら、これをやってしまったら、私はきのうも申し上げたように、皆さんがやれと言うんだったら私はやりますよ。どうしてもやれと言うなら今すぐにでも全部耐震にかかります。でも、今の財政状況を考えたら、間違いなく23年度には破綻するという状況が見えている。ですから、今、優先順位をつけてと言われるけど、優先順位もつけたい。つけたいけども、つけれる状況じゃなくて、それは総合的に考えないといけないけども、だから、私はできるところ、今、補助金が対象になるところは先にやれという指示も担当に出してしまして、ですから、学校の耐震も補助がつくようなところは先にやろうと。

ただ、きのうも申し上げたように、今週の法改正がどうなるか、その状況によって大いに変わってくると。だから、それで今、国の方は確かに尾鷲市は学校の耐震化率にしても44%しかなくて、県下で最低のレベルだと。それだけ尾鷲市は耐震化には今、立ちおくらせている、これは事実であります。端無議員の言われるように全部やりたい、これは立ちおくらせているわけですからやるべきだと、いつ起きるかわからない地震に備えて私もやるべきだと思っています。ですから、今、いろんなことを考えて、担当課でも頭も悩ませて、どうやって今やるか、どうやって補助金を取るか、そういうことを考えて今やっているという状況であり

ますので、ぜひその辺をご理解いただきたいと。

さっき申し上げた 88 棟の中で 43 棟は可能でありまして、あと 7 棟は補強可能であるという状況で診断しております。あと残り少しありますけども、私は、これは端無議員と同じ気持ちだと思います。早いところ耐震診断をして、耐震診断もまたかなりお金がかかるんですよ。診断ぐらいせえという意見がかなりあります。でも、耐震診断をするのにもものすごいお金がかかる。ですから、そのことを今、執行部も頭を悩まして、やれるところはやろうかということ動いておりました、ですから、前市長もそのことを悩んだと思うんですよ。ですから、まずはこの庁舎が有事の場合には困るということで、4 年前に防災拠点施設という防災センターをつくったんやと思うんですよ。そういう意味で、優先順位とされていますけど、私は皆さんで知恵を絞ってやれるところからやりたいというふうに考えております。

それと、何度も申し上げますけども、今週の地震対策特別措置法、この改正がどの程度進むのか、そこを見きわめたいというふうに考えております。今、本当に国の方もいい方向に動いてくれておるわけですよ、我々にとっては。ですから、そこをきちっと見きわめた上で私はこの耐震ということ、本当に端無議員と同じ気持ちですよ。こんなもの、全部耐震やりたいです。そのことだけはわかっていただきたいというふうに思います。

議長（與谷公孝議員） 10 番、端無議員。

10 番（端無徹也議員） 私が聞いたかったのは、優先順位を奥田市長さんの中でついでるのであれば、本庁舎と消防署の優先順位というのは、今、言われたように学校と一緒にだということで優先順位は両方とも一番、でも、実際的には同時に進めることは、財政難の折、恐らく不可能だと。ただ、これでは話が進まないわけですね。私たち議員というか政治家というか、尾鷲市の市議会議員としては、熱い思いだけではだめなんですね。熱い思いとプラス裏づけられた予算だとか、きちっとした方向性。何か今、奥田市長さんの話を聞いていましたら、補助金がつくまで待たなあかん、つくかどうかまで待たなあかん。確かにその気持ちはよくわかります。何も私の考えと奥田市長さんの考えが違うというのをここではっきりさせようじゃないかというような立場で僕は一般質問に立っておるわけじゃないんですけども、熱く語って語れる部分と、やっぱりどうしても新しくこの尾鷲の市長になって、たくさんの期待を持って尾鷲の市長になられた奥田市長さんに期待されていることというのは、補助金がつくまで待たなあかんのやとか、や

らんなあかんのやだけではなくて、もう少し具体的に優先順位はどうかとか、耐震計画はどうか。確かに88棟ある中で43は耐震オーケー、45は診断まだ、そのうち7棟は補強可能。ただ、今、この場面で88全部の施設を言いなさいとは言いませんけども、例えば、その施設はどこ、耐震オーケーの場所の施設ってどこ、診断まだのところはどこ、もし仮に地震が起こって避難所へ行ったら避難所がつぶれてなかった、そういう可能性のある場所ってどこ、そういったことすら見えてこないというのは、日常生活をしとって非常に不安です。避難所と思われるところが避難所でなくなる可能性というのが45ある。それがどこか今現時点ではわからん。例えば尾鷲市のホームページのここをクリックして、ここをダウンロードして、もしくは尾鷲市とかそういう公共の建物に行ったら、きちっとそういう現時点での資料があって、どこが大丈夫か大丈夫じゃないか、例えばそういったようなお金がないから耐震ができない、診断すらできない。では、それまでにできることを広く知ってもらい、その作業は僕はそれほどお金はかからんのではないかなと思うんです。

僕は「防災みえ」というホームページで、今回、公共建物・公共施設の耐震化の状況というのを知りました。残念ながら、尾鷲市のホームページではそれは知ることはできませんでした。だから、知れるようにしたい、してくれとまでは申しませんが、それは奥田市長さんが考えてもらうことかなと思うんですけども、例えば、県所有物の耐震化の現状というのは、きちっと耐震化診断まで含めて、その計画まで含めて見れる状態になっています。それを見て、例えば僕なんかは、ああ、あそこは耐震化、県の所有物は避難所になっておるけども、耐震化されていないよって、想定される地震が来た場合、あそこは避難所として機能せん。そうすると、あの避難所がつぶれると仮定した場合に、そこに避難するであろう人たちは一体どこへ避難するんであるうなというような想像をします。僕はそれが減災だと思います。

その中で、あえてもう一度聞くのは、この本庁舎、消防署は、前回の視察に行ったときに訓練棟が崩れる可能性がある。それ以外は大丈夫です。その訓練棟が有事の際に崩れても業務に支障のないような体制をとっています。例えば、その崩れるであろう訓練棟の近くに人が常におるような状況にないようにしているとか、そういったことだと自分は受けとめたんですけども、そういうふうに尾鷲の消防署は耐震化したい、でも、予算がないからそういう備えをしている。では、言いかえて、この庁舎が診断、まずきちっとできているかどうか。もう一つは、

確かに奥田市長さんの言われたように、尾鷲は離れたところに立派なセンターをつくりました。そこに例えば住民票のデータとかコンピューターのデータを置いて、もしこの庁舎が残念ながら倒壊してしまっても、データはありますよ。そういう体制はとりました。だが、しかし、データだけあってもだめなんですね。そこに人がいないとデータを引き出す策がないんですよ。というのは、この庁舎自身が一体どの程度もつのか、もたないのか、そういったところは現状ではどうでしょうか。耐震化の状況などと含めて、もう少し詳しくお答え願えたらと思います。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 今、端無議員、たくさん言われましたけども、熱い思いだけじゃだめだと、裏づけられた予算が伴うという話もありました。だからこそ、私は今の財政の状況を見て頭を悩ましているという状況であります。

それで、端無議員が言われるように、安心・安全の確保ということで、広く耐震化が確保されているという施設、そうでない施設ということを確認に市民の皆様様の安心・安全の確保ということでは重要でありますので、そういうことを知ってもらおうということ、これについては前向きに検討させていただきたいというふうに思います。

それで、端無議員が今、熱く言われました本庁舎、確かに私も思いますよ。今、地震が起こったら、端無議員が言われたように防災センターをつくりました、つくったけども、もしもこの庁舎が倒壊するようなことがあった場合、職員も動けないということも考えられますので、ですから、そういう意味では私もこの庁舎の耐震ということは、財政との兼ね合いがありますけども、それしか言えませんけども、財政の状況を見ながら時期を見て速やかに耐震診断に入りたいというふうに考えております。

議長（與谷公孝議員） 10番、端無議員。

10番（端無徹也議員） 本庁舎の耐震診断がされていないということで、今後それをしていきたいというふうに受けとめてよろしいかと、私はそのように受けとめました。確かに例えばこの時間、今、想定される地震が起こって崩れた場合に、生きるか死ぬかという死ぬ可能性の方が高いわけですよ。そうなった場合、市としての機能が果たして保たれるのかというのは言わずと知れたことだと思います。ですので、僕が一つ懸念しとったのは、何で奥田市長さんからの本庁舎の耐震化診断をしますよというのを引き出したかったかということ、世間では学校の

耐震化ばかりが先行されて、果たしてそれでいいのだろうか。それは僕も将来を担う尾鷲の子供たちが毎日危険にさらされている、いつ崩れるかもしれない、ここよりもっと先に崩れるかもしれない木造校舎で元気に走り回っている子供たちの命を考えると、それは1日でも早くしたい。でも、お金がない。でも、やっていかななくてはいけない。確かに担当課を含めて苦悩するところだと察します。しかし、僕もそういう熱い思いはあるけども、出されたデータですとか予算ですとかアイデア、これにこうですよ、ああですよとは言えますけども、奥田市長さんが言う熱い思いに、こうですよ、ああですよでは、僕の今のここにいる立場ではできないんですよ。ぜひとも知るといことがまず大事だと思います。例えば、この本庁舎がどのぐらいの耐震で、どのぐらいの可能性でどこがどのように壊れる可能性があるのか。小学校や中学校でやったような耐震化診断をぜひこの本庁舎でもやっていただいて、職員にまず知らせる。地震が起こったときに、あなたがいる今その部署は完全に崩れます、それを知っておくというのと全く知らないというのでは身構え方が絶対違うように思うんです。ぜひとも今言われたような、もちろんお金がかかる部分で、庁舎も先と言われましたけども、学校が先というのが先行しとる中で非常に心苦しいところはあるんですけども、ぜひとも検討していただきたいと考えています。

そこで、別に奥田市長さんにエールを送るわけじゃないんですけども、同じような問題って、きのうもおとといもよく似たような関連のところで行われていましたけども、起こっているんですよ。別に尾鷲市だけに特化した問題ではなくて、どの自治体も今お金がなくて、学校の耐震化をせなあかんし、庁舎の耐震化もせなあかんし、それ以外のところもある。もちろん病院施設なんかもそうだと。どこの自治体も同じ悩みを抱えている。例えば、その悩みを抱えている一つに熱海市、ここに行ったときに、そこの担当課の人がこう言っていました。「熱海市は庁舎の建てかえが先です。そのために小学校、中学校の耐震化を事実上ストップしてあります。」まず、そこに僕は興味を持ちました。もう一つ興味を持ったのが、そこの市長さんが奥田市長さんと同じく40代前半の市長です。すごい競り合いを現職とやって、もっと僅差でした。勝ち上がって、耐震化を一番最初に言われたときに学校が先と言っておった。でも、やがて庁舎でしょうと。やはり職員の命を守ってこそ復興・復旧の活動がされていくんでしょうということ、熱海市においては庁舎の建設を先にやっています。もちろん、それに対してPTAは非常に反発していました。見る限りですけども、反発したそうです。その際、

熱海市の市長さんは、担当課の人と伴って皆さんに説明して回ったと。今のこの重要性を説明して回ったと。恐らくそういったような自治体、もしくはその反対の自治体もあるかもしれませんが。いや、学校が先でしょう、あるかもしれませんが。全部調べたわけじゃないんですけども、自分が見たところでは熱海市はそのように英断していました。

何が言いたいのかというと、恐らく奥田市長さんに求められているのは、今までのやり方、今までのようなこの尾鷲の歴史をつくってきたような政治のやり方ではだめですよという人が少なからずたくさんいて、今、その席に座っていられると思うんです。第一に求められているのは、この財政難を乗り切る施策です。この施策がどうなのか、それに期待されていると思います。それに僕は期待しています。それは大胆な英断がないとあかんと思うんです。今のように助成金が出るかもしれんとか、できたら全部やりたいんですというような、僕も語り出すと熱くなりますが、奥田市長さんのように熱い言葉だけじゃなくて、悪いけど、今、これは進めていかなあかんかもしれない、この事業も進めていかなあかんかもしれんけども、これを私は財政難をクリアするためにやりたいということがあるのであれば、英断せなあかんと思います。恐らく奥田市長さんに入れた市民、または入れるのをためらったけども今後期待する市民というのは、奥田市長のそういうところを求めていると思うんです。あいまいな熱い思いだけじゃなくて、ある意味、これをしていったら何かストップしていくん違うんかなと思うことでもストップさせやんと財源って生まれんと思うんです。確かに見ておって18億円、21億円マイナス、あのデータだけ見ておったらやりようがないですよ。退職金4年間、それで何千万円、確かにそれも一つの手手段だと思います。ただ、これは施策じゃないと思うんです。もっと普通に今までの前市長の考えていた、例えば学校の耐震化でいうと30億円から要る。幾ら安く見積もっても、それが10分の1になることは絶対ないでしょう。ある程度はどこかでやっぱり切らないとだめです。もちろん国の予算というのもあるでしょう。それは四川の大地震から国も本腰を入れて考えてくれるでしょうが、いや、それよりも奥田市長さんが考える英断というのをもっとずばっと出してきてもいいんじゃないかなと私は考えます。

きょうまでの一般質問を聞いていて、何かためらいがあるなど。熱い思いだけいっぱい聞いても、ああ、そういう気持ちやなど。もちろんそれは議員に対しても一般市民に対してもそういう気持ちはあるよなど。で、どうするのと言われた

ら、その後がないんですよ。その後があれば、僕たちももっと真剣に、でもな、それじゃおかしいやろ、いや、ええな、そうしようと。それで考えている公約が一つでも実現して市民の利益につながるのであれば、僕らも言い方はよくないですけど腹を切らなあかんところは腹を切らなあかんよと。それは議会であっても市民であっても行政の職員であっても、尾鷲に住む人みんながそう感じやなあかんと思うし、感じるべきだと思うんです。ぜひとも、挙げられた公約以上にあって驚くような施策をもう少し具体的に打ち出していただけたらなと考えています。

それでは、もう一つの質問の方、いいですかね。何かお答えは。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 端無議員の熱い思いを聞いていまして、私も立場は変わって、端無議員で4人目の一般質問を受ける立場でして、ほんの数ヶ月前はそちらに座って、私も以前の伊藤市長に多分こういうことを言っていたなというふうに思いながら、今、聞いていたんですけども、本当に何度も申し上げますけども、私も議員時代、財政再建ということを中心に前市長には聞いたことがあります。でも、市長になって、議員時代に思っていた以上にかなり厳しいんですよ、今の状況は。その中でやりくりしないといけない。今、優先順位という話をされましたけども、確かに熱海市の齊藤市長は学校よりも庁舎も大事だと言われたという、それは大英断かもしれません。でも、私は市長になって、学校の耐震をどうするんだという記者からの質問が結構あって、どこの学校を先にするんだとかいろいろ言われました。私は学校の中でもどの学校がすぐれていて、どの学校が後だとか、そんなことは私はないと思うんです、同じ学校なんだから。学校と庁舎がどっちが大事なんだと言われても、それは庁舎は庁舎で職員の方の命ということがあります。学校は学校で子供たちの命ということがありますから、私はどっちが大事なんだと言われても、どっちも大事ですよ。これで優先順位をつけよということは私ではできません。だから、今は学校の耐震ということで動いていますけども、当然、庁舎の耐震というのはやらないといけませんからと私は思っていますから、端無議員が言われるように、学校の耐震ということで、今、かなり整備の計画を煮詰めています。私の就任以降、皆さんにはまだ申し上げていない部分も結構ありますけども、担当課でも今、頭をひねって、かなりスケジュールを含めて考えているんです。そして、そういう意味で、来週の委員会の中では、今週の法改正ということもありますから、もうちょっと踏み込んだ説明ができると思いますけども、この6月議会が終了したら速やかにきちとしたタイムスケジュールもつくって、

もう大分できつつありますので、そのことをお示しできると思いますし、その合間にちょっとお時間をいただきたいと。きのうも申し上げたように、決して何も考えていなくてやっているわけじゃなくて、財政との兼ね合いというのは十分考えないといけない。ですから、そののところが踏まえて、今、必死になってこれを考えていますので、ぜひその辺をご理解いただきたいと。ですから、具体的な説明がないじゃないかということは、ちょっと待っていただきたいんですよ。今、本当に大分煮詰めてきているんです。国の方針も4月から変わった、それでまた法改正があるという中で、前の補助金メニューの中で、できるところはきちっとやろうということで、今、考えていますし、そういう意味で、国の方針も改築から補強でいいよと、3年から5年でやりなさいという伝達もありますから、そういうことも踏まえてやっていかなあかん。それと同時に、今、端無議員が言われたように、ほかのところも、本当にこれは再三申しわけないですけども、どうしても財政との兼ね合いがありますから、そのことを踏まえて速やかに耐震診断できるところは耐震診断をする、補強が可能というところも7棟ありますから、そういうところも財政との兼ね合いを見ながらどんどん進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

議長（與谷公孝議員） 10番、端無議員。

10番（端無徹也議員） 次に、まちづくりについてさらに聞かせてください。先ほど尾鷲市長としてまちづくりというのを聞いたんですけども、例えば、今、中心市街地という発想があります。もし奥田市長さんに中心市街地という想定があるのであれば、その中心市街地という想定は尾鷲市においてどの辺になるのかというのをお答え願えるでしょうか。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 今、中心市街地ということですけども、中心市街地というのは、一般的に申しますと、そこに人がたくさんいて、そして消費圏が形成されていて公的機能もある程度充実したところ、そういうことを中心市街地というふうに呼ぶのかなというふうに認識しております。ただ、今の尾鷲市ということをお考えますと、これは全国的に見てもそうだと思いますけども、車の普及ということがあって、地方都市の市街地なんかもそうですけども、駐車場問題とかいんな問題があったり、そういうことがあって、どんどん外へ外へという郊外化しているような状況であります。ですから、端無議員の言われるのは、商店街のこととか、

そういうことじゃないかなと思うんですけども、実際、尾鷲市においても、ほかのところと同じように商店街なんかも今、以前と比べたらかなり寂れてしまって、空き店舗なんかもどんどんふえているという状況であります。ですから、中心市街地をどう考えているかという、ちょっと難しい質問だなと思うんですけど、私はこの尾鷲市ということ考えた場合、尾鷲市全体で商業地とか、そういう面も含めて考えないといけないなと思ってまして、商店街だけ申し上げますと、確かに選挙期間中もいろんなマスコミの方々が商店街をどうするんやという質問を結構何回も受けました。私は、そのときに必ず答えたのは、今、車社会の中でどんどん郊外化していると。商店がどんどん外へ出ていっている。そういう中で、商店街というものが確かに果たす役割というのは、昔とは違って、私が申し上げたのは、これだけ高齢化が進んでいるわけですから、そういう意味では高齢者の方が来やすいような店とか、それから憩いの場所とか、そういうところを設けていく必要もあると思うし、それから、大胆に発想しますと、住宅地という考え方、そういうふうにしていくことも考えないかんとと思うし、また、空き店舗の活用ということで、もっと行政としてもやれることはやっていかんあかんのかなというふうに思ったりしている状況であります。ですから、一概に中心市街地というふうなことが、今、なかなかこれは全国的に見ても難しいんじゃないかなと思ってまして、だから、そういう意味で、先ほど端無議員、最初の質問でも言われたまちづくりということも踏まえて、今後もこの市街地のあり方というのを尾鷲市全体で考えないかなというふうに思っている次第であります。

議長（與谷公孝議員） 10番、端無議員。

10番（端無徹也議員） 聞きたかったのは、尾鷲市における中心市街地という想定がまずあるのかなのか、もしなければいけないと。あるのであれば、一体どこを中心市街地としてとらえているのかというのが聞きたかったところなんですけども、商店街の話がされたので、商店街の通りに住む一住人としてでもですけども、例えば僕は商店街の通りに住んでいますけども、中心市街地が必ずしも商店街でないといけないということはないんですよね。全国的に見て中心市街地の活性化というのは、大体、昔、商店街やったところ、商店街の通りやったところを再活性化させようというのが中心市街地という発想で出ているんですけども、僕が奥田市長さんに聞きたいというのは、商店街のことを言われましたけども、多分尾鷲のまちというのを見渡したときに、商店街は今言われたようにちょっと寂れてきていると。それは事実として、僕が3年前にあの商店街に来て、3年間

の間に10店舗、店をやめたり更地にしてしまったり住宅用に変えてしまったりしています。というところから見ても、その昔、駅前から中井町の通りまで百何店舗あったんですけども、現在44店舗、半以下になっているんですね。さらに商店街のことをいうと、44店舗あるうちに、10年後、今あるお店が継続してあるかを見たときに半分ぐらいになってしまう可能性が高いんですね。というのは、ほぼやっている人が、もう私の、おれの代で終りなんやと、娘や息子はもうよそでやって世帯持っておるもんで、帰ってきてもこんなところで商売できないので、わしの代、私の代でおしまいやというところが実際多いわけです。もう既に住んでいないという人もおります。その商店街に住むんじゃなくて、店はあるけども、よそに世帯を持っておって、様子を見ながらその場所で続けるか、続けんかというのも考えていくわ、ここ何年かだなという人ももちろんおります。それは確かに奥田市長さんの言うように、寂れているという表現につながっていくかなというのは自分の意見としてもあります。もちろん今言った駅前から中井町の通りの商店に店を出している人で、若いのは35歳です。それより下はいません。上は70代、80代。確かにそう思うと寂れておるし、中心市街地と呼ぶにはちょっと恥ずかしいなと。自分が住んでおりながら自分自身はそう考えています。だからこそ、奥田市長さんとして、例えばそういう中心市街地という発想がないにしても、まちづくりをやっていこうと。多分それは公約にもあるまちづくり工房ですとか高齢者の方向けのご意見番工房というところがまちづくりにつながってくるのではなからうかなと自分は受けとめておるんですけど、多分そういった商店街の寂れかげんを感じながら、でも、何とかしないといけない、尾鷲のまち全体を見渡して何とかしていかないといけない、まちづくりとして。その中でそういった二つの工房の案が出てきたと思うんですけども、公約は公約であるかもしれませんが、そこももう少し具体的に、実際見られている現状を把握しながら、例えば商店街の44店舗のうち2店舗は、もうよその通りに引っ越す予定です。商圈として変わっている部分もあると思います。言われましたように、高速道路ができて42号線が供用されると、あちらが商圈になる可能性というのも実際として出ています。あちらに大きな店舗ができたりもしていますし、現状として商店街通りよりもほかの場所が商圈として発展していく可能性というものもある。そういうのを見たときに、僕はその二つの工房がいかに機能していくのか、どういう想定でやっていかれるのかというのを、もう少し具体的にお聞かせ願えたらなと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 端無議員の熱い思いというのは非常に私もよくわかります。ただ、端無議員よりも私はこの商店街のことは気にしていると思うんです。というのは、端無議員は、こんなことを言うたら失礼かもしれませんが、小さいころは隣の市の飛鳥町の生まれだということで育てられておる。私は名柄町の生まれですけれども、3歳のときにこっちに引っ越してきました、尾鷲小、尾鷲中に通いまして、小さいころ商店街でよく遊んだんですよ。夜遅くまで人通りが多くて、本当に人がごったがえしていたんですよ。ですから、以前に申し上げたことがあるんですけども、私は二十五、六だったと思うんですけど、久しぶり商店街を通ったときに本当に閑散としていまして涙を流したことがあるんですよ、何だこれはと。そういう状況で、10年以上前に比べてさらにまた寂しい状況になっていると。過去を調べてみますと、尾鷲市も商店街の活性化ということに対しては、今、端無議員が言われた中心市街地というのは、当然にぎわいのある中心地という意味ですから、その商店街通り一帯のところを私は指していると思うんです。そのことについては、今までも行政としてずっと取り組んできているんですよ。いろんな手を打ってきている、いろんなイベントをやったりとか。でも、人口減、それからさっき言ったような車社会がどんどん広がっていく、駐車場問題とかいろんなことがあって、そして、いろんな手を行政としても打ってきたみたいですが。私も詳しいことはわかりませんが、いろんなことを打ってきたんですけども、その効果がなかなか出なかったというのが現状であります。ですから、先ほど申し上げたように、私は空き店舗の利用とか、そういうものをもっと考えないといけないと思いますし、今、東紀州交流空間事業の中で、中井町の和っしょいの会の方々が一生懸命やっていますけれども、あそこから熊野古道センターへ抜けていくところのあそこをどうしようかという議論をこれまでしてはいたけども、それだけじゃなくて、馬越峠をおりてきた方々が中井町通りを通して、商店街を通して尾鷲駅へ行くというケースも多々ありますから、尾鷲駅から港までの線、だから、その部分も今、この東紀州交流空間事業の中で、どうしたら観光交流という面に来てくださった人たちに少しでも滞在していただいて、そして消費も少しもしていただくという、そういう動きも出ていますので、そういうことも私は行政として最大限バックアップしていきたいなというふうに考えている次第であります。ですから、この問題というのは、本当にここ何年間か、ずっといろんなことをやってきていることで大きなテーマだと思うんですけども、そういう意味で、

何とか私も少しでも達成ができるように、もう少し東紀州交流空間事業の方々と
もきちっと議論して、市としてやれる範囲でやりたいなというふうに考えており
ます。

議長（與谷公孝議員） 10番、端無議員。

10番（端無徹也議員） まちづくりというのは、どこで何をやっても構わんのじゃ
ないかというのが私の根本的な考え方です。もっと言えば、奥田市長さんは前段
で、僕が熊野の出身で飛鳥の出身で、私は名柄の出身で何歳から出てきたと。別
にそれは関係ないように思うんです。それを言われると、僕より長いこと尾鷲に
住んでいる方はたくさんあって、わしの方が長いこと住んどんじゃいと言われ
たら、僕らは立つ瀬がないですよ、それを言われまして。僕は自分が住んだと
ころがふるさとであり、自分の住むまちとして何とかしていきたいという気持ち
があるわけです。それは奥田市長さんも一緒やと思うんですよ。自分のまちで、
やっぱり尾鷲においてはそういうのを今後なくすまではいかななくても、そういっ
たちっちゃいところで物事を考えて発想するんじゃなくて、住んでいる人たちが
それぞれ何をやっても構わん、まちづくりということに関して何をやってもいい
んです。市民活動であったりボランティア活動であったり、そういう定義にはま
らんけども、自分の自宅の前を掃いてごみを掃除する、草が生えておったら抜く、
花が植えられておって気づいたら水をやる、そんな程度でも僕はまちづくりだと
思うんです。どこで何をやっても、だれが何をやってもいいんです。

その中で、まだ具体的にお答えいただいていない二つの工房についてなんです
けども、時間も時間ですので、もう少し具体的に、そういった中で、私は、まち
づくりはだれがどこで何をやってもいいんだと。それは住民の力だと思うんです。
住民それぞれが、私は、おれはまちづくりしとるでなと思っている人なんてほと
んどいないです。自然とやっていることが、他人が評価して、ああ、それはまち
づくりやなと思えばいいわけです。行政というのは、そういったところをつぶさ
に観察しとって、ああいう人たち、ああいうグループがこういうことをしてくれ
ている、これって尾鷲にとってプラスだよな、マイナスじゃないよなと。そうい
ったところを見つけて、そういったところに支援してあげる。いろんな支援があ
ると思います。もしくは、そういったことがしやすいような環境をつくるという
のが僕は市としての役割だと考えているんです。

そこで、この二つの工房なんですけども、私の考えは、行政主導でこういうも
のをつくる必要ってあるのと。もっと言えば、今、行政として新産業創造課の下

にまちづくりプロデュースセンターというのが中井町の通りにあります。じゃ、そこの関連性、関係性、どういうふうに想定されているのと。そういったことをもう少し、これは別に予算立てとかいう質問ではありませんので。私は、行政主導でやるものというのは継続性がないなというのが率直な感想です。自然発生的に起こってくるものが脈々と続いていきます。熊野古道だって多分そうじゃないですかね。時の行政がああ道をきちっとせえよなんておふれを出すよりかは、そこを通る人たちの姿を見た近くの住人や、もしくは歩いた人たちみずからが道を直したり整備したりして、世界遺産にも登録された誇れる熊野古道として今に続いているんやと感じておるんです。

そういったところで、ちょっと話は飛ばしてしまいましたが、今言った工房とまちづくりプロデュースセンターのかかわりが、もし具体的に聞けるのであれば、よろしくをお願いします。

議長（與谷公孝議員） 市長、答弁はきちっと質問者の趣旨に沿ってやってください。
市長。

市長（奥田尚佳君） すいません、今、誤解があったと思いますけども、決して僕はよその方をそういうふうに悪く言うつもりはなくて、私も市議員に立候補したときは名古屋の人間やないかと言われてまして、今でも言われますけど、それはよくないと。ただ、わかっていただきたいのは、私も小さいころはやんちゃ坊主でして、商店街で夜遅くまで遊んでいまして補導されかけたこともあるんですよ。だから、そのぐらい私は、商店街は思いは小さいころから持っていますよということをおっしゃったかただけの話で、今、誤解がありまして、その辺は申しわけないと思っています。

それで、今の工房の話なんですけども、私が公約で、これは所信表明でもあまり言わなかったもんですから申しわけなかったんですけども、このまちづくり工房というのは、あくまでも広い意味でのまちづくりということを進めていくための機能であり部署というものを考えておりまして、ですから、単なる目安箱じゃなくて、今、こういうのがあるとか、こういうことをやったらいいんじゃないとか、そういうふうな意見とかがあって、それが消化し切れていない部分が多々あるんじゃないかと。先ほど申し上げたように、やっぱりこれからはアイデアをどんどん出して、どんどん新しいことをやっていかないといけない。これまでとは全然違うようなことをやらないといけないという時代に入っておると思うんですよ。ですから、そういう意味で、ご意見をいただいたのを、きちっとそこで皆

様の声を行政の中に反映させる部署、そういうことで私は言っているんです。ですから、端無議員が言われたような、最初からHOTセンターはありますよ。私の言っているまちづくり工房というのは、HOTセンターとはまた違うんです。HOTセンターというのは、ある意味、観光交流という側面から地域をどうしよう、それから地域住民の方々の活動をどうしようかと。今、観光物産協会も一緒に入ってやっていますけども、そういうことで、今、あそこはああいう形で機能しているところであります。あそこはあそこで頑張ってもらわなあかん。でも、私はそうじゃなくて、もっと広い意味での地域のコミュニティーということ考えた場合の皆さんの生の意見をきちんとそこで消化して、それをまちづくりに生かせる部署を私は今考えておまして、そういう意味では、全然と言ったらあれですけど、HOTセンターの機能とは違うということだけはご理解いただきたいというふうに思います。

議長（與谷公孝議員） 10番、端無議員。

10番（端無徹也議員） 今までよりちょっと具体的にまちづくり工房について出ましたので、もう少しその点についてお聞かせ願いたいです。まちづくりプロデュースセンターとは違うと。中井町にあるあそこ、HOTセンターと呼んでいるからHOTセンターと言いますが、HOTセンターは観光交流からのまちづくりだけだったのかなと思うところはあるんですけど、まあ、それはよいでしょう。新しい部署として、ご意見番工房も多分恐らくそうなんでしょうけど、新しい部署としてということは新設をするという理解ですか。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） そうですね、私の中ではある程度の組み立てはできているんですけども、また皆さんと議論しながら新しい部署のところを設けるのがいいのか、それとも、ある課の中でそういう担当をつけるか、そのところは今年度中の早い段階では皆さんと議論した中でお示しして、できたら遅くても来年度からはこういうのをきちっと置いてまちづくりに反映したいというふうに考えております。

議長（與谷公孝議員） 10番、端無議員。

10番（端無徹也議員） 例えば、今、僕はそれに命をかけているんじゃないかと人にも言われるんですけど、住民自治、住民自治と言って、できることならば住民ができることは住民にやっていただいて、なるべく行政がやらなあかんことをスリム化させていって、それがいろんな削減につながったり、お金が今までたくさんかかっていたところが、住民ができることがあるんやったらそっちにお任せを

するということが今後の自治体の中の行政のあり方じゃないかなと強く訴えるもんですから、新しい部署にしる、ある課にもう一つ新設するにしる、この二つの工房を行政の中につくって、簡単に言うとHOTセンターとはまた違った機能というの、言葉ではよくわかりますけども、恐らく受けとめる市民はどういうふうな受けとめ方をするのかと、今、考えながらで質問になってしまうんですけども、住民自治に向かうというのを考えると、そういったところを新たに行政の中でつくって、行政の中は、今、人員削減の方針でスリム化させていこうという流れの中で、これ以上職員の仕事をいわゆるふやすような作業をするのもいかなものかなと、率直な意見として、今、持っています。もう少し具体的に担当課がどこになるのか等も含めて、今後、協議されて、委員会の場であれ出てくるように感じるんですけども、やはり住民自治というところを考えると、これ以上行政でいろんなことを抱えるのはいかがかなと感じるんですが、そのあたりは、奥田市長さん、どうですか。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 確かに端無議員が言われるように、今、いろんな行財政改革の中で、行政を縮小するという考え方、これは基本的な考え方だと私は十分認識しております。ですから、私も常に思うのは、なぜ行政がスリム化していく時期に経済を考えたりいろんなことをやらなあかんということが、私も今、市長になってまだ悩んでいるところでありまして、ただ、今の尾鷲市というのは経済状況が非常に悪いということもあって、ある程度、経済とか観光ということも、本来私は観光ということも考えなくてもいいんじゃないかと、本当に行政ということをきわめて考えていくとですよ。そういうことは十分わかっておるんですけども、今、民間の力がいつときに比べてかなり落ちているという状況があって、本来は産業振興とかそういうものは行政が縁の下の力持ちでちょっとフォローするぐらいでええと思うんですけども、今、そうもいかないもんですから、きのうの夢古道の話でもありましたけども、本当に行政も今はバックアップして、いろんなことをやっているわけですね。このところに対して、私も今、十分悩んでいるところなんですけども。本当を言ったら、僕は起業家支援とかそういうことも公約に掲げました。ですから、もっと民間の方々が元気になっていただきたいという意味でおるんですけども、なかなかそういうふうになっていない。だから、行政がその辺の産業とか経済振興とかでも十分考えないといけない。だから、広い意味でのまちづくりということもどんどん考えていかなきゃいけない、そういうこと

が言えるんです。

ですから、HOTセンターにしても、今、職員を2人派遣しています。当時は商工会議所さんも1人出してくれていたんですよ。それがいつの間にか引き上げていまして、尾鷲市の職員が2人残っているんですよ。私はこのことに対して非常に疑問を持っているんですけど、今の状況だとこれはいたし方ないのかなと。でも、これは近い将来、民間の力をもっとつけていただいて、将来的にはできるだけ早い段階でHOTセンターからも職員を引き上げて、でき得れば、端無議員が言われることはもっともです、民間にきちんと委託していくということが私は大事だと思っています。

ですので、今、そんな全体を考えるまちづくりなんていうのは民間に任せたらええやないかということを言われています。確かにそうです。本当は民間できちっとやれる仕組みをつくっていかないといけない。だから、今、いろんな意味での過渡期に来ていると思うんですよ。ですから、そういうことに向かってどんどんやっていきたいと思う。でも、やっぱり今は行政がそういうことを考えずに何も支援しないということになってしまうと、ますます尾鷲市の経済というのは落ち込む可能性は十分ありますから、そういう意味で、私はこういうのも行政主導でやるのもどうかと言われますけども、私は今、やっぱり行政主導でやらざるを得ないのかなと。でも、これは今、過渡期ですから、一時的なものであるというふうにご理解いただきたいというふうに思います。

議長（與谷公孝議員） 10番、端無議員。

10番（端無徹也議員） やはり今のこの状況をかんがみた場合、行政主導でまちづくりも全部とは言いませんがやっていかないといけないという奥田市長さんの言葉は一理あるのかなと考えつつも、一体このまちは、尾鷲市だけじゃなく、この東紀州は、いつまでこの行政主導というのがついたまちづくりというのをやるのかなというのを考えたときに、南北の格差だとかを三重県の中で言われたり、そういうのにつながっていくのかなと。例えば、この場では言うことではないと思うんですけど、何で三重県の県庁の中に東紀州対策局なんていうのがあるのかなと。そこが全部まちづくりを担うわけじゃないのはよくわかっているんですけども、そういったような部署ができたりして、やっぱりこの地域、住民・市民というのは信用されていないのかなと。何でもう少し住んでいる人たちが今やっていることが、些細なことかもしれないですけども、そういったところにつぶさに目を向けて、そちらのバックアップをするというのは、僕はこれは行政主導じゃな

くて支援だと思えます。ぜひとも財政難の折、本当に1円でも何とかしたいと考えているのであれば、行政主導でしていかなくてはいけないことと、民間でもできそうなことと、行政が支援して続けていけることという、まさに優先順位というのを、今、市民は奥田市長に求めているんじゃないかなと考えます。

以上で私の一般質問は終わります。奥田市長さん、特に何かありましたら。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 枝葉になりますけど、東紀州対策局というのは、ご存じかどうか分かりませんが、県民局が尾鷲と熊野が機能的に統合するという状況の中で、県民局長もいなくなっただけですね。そういう中で東紀州対策局というのが県庁の方から出たということでありまして、県の方もこの東紀州の南北格差がありますから、何とかしたいという思いだと思いますので、その辺は私は理解を示したいと思うんですけど、確かに端無議員が言われたとおりでありまして、民間でやってももらえるものは民間でやってもらったら私はいいと思うんです。ただ、今、民間の力がもっとついてきてほしいですね。尾鷲市もいろんな団体があって、いろんな取り組みをしていただいておりますけども、さらにいろんな取り組みをしていただいて、ぜひ民間の力をさらに上げていただいて、行政がやらなくてもいいところはもう民間でやっていただくということは端無議員の言われるとおりでありますので、そういう方向で進めていきたいと考えております。

議長（與谷公孝議員） ここで10分間休憩いたします。

〔休憩 午後 2時13分〕

〔再開 午後 2時25分〕

議長（與谷公孝議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、5番、真井紀夫議員。

〔5番（真井紀夫議員）登壇〕

5番（真井紀夫議員） 質問の事項「奥田市長の言動と政治姿勢について 所信表明と地元紙等に報道されている記事や市民の声から」、そのように通告をさせていただきますので、一般質問をただいまから行います。

奥田新市長の初めての所信表明をじっくり読ませてもらいました。私の初めての奥田市長に対する質問は、その所信表明の中身を中心として、私の疑念を晴らしていただくことです。率直に質問しますので、冷静なる答弁をお願いします。

所信表明の冒頭で、「ちょうど4年前、議員にさせていただいたときと同じ気持ちで、この尾鷲市を愛する気持ちはだれにも負けないとの自負を胸に、初心を

忘れることなく、市民の皆さんと一緒に汗をかき云々」との基本姿勢を述べています。当然そうあるべきだとは思いますが、議員になったときと同じ気持ちとはいえ、尾鷲市の最高指導者、最高責任者として、議員当時の気持ちで言動されることへの不安と危惧を抱く者の1人であります。

「言いたい放題」、「やりたい放題」と言うと語弊がありますが、私はあなたの性格と言動に少なからず危うさを抱いている1人であります。あなたはこれまで市長に対する疑念や批判をもろにぶつけてきました。それはそれで市民代表の1人として当然の活動だとは思いますが、立場が逆になったことで責任の重大さをどれほどかみしめておられるのか。市長に就任してまだ日は浅いとはいうものの、市長としての意識改革がなされていないのではないかと思える場面を幾つか感じ取っています。

奥田市長は、「尾鷲市を愛する気持ちはだれにも負けない」と強調されていますが、その愛する尾鷲に妻や子供をなぜ住まわせないのですか。なぜ家族一緒に尾鷲で生活しないのですか。尾鷲市長の妻子は名古屋の住民であるとは思議ではないですか。七不思議とは申しませんがね。それでいて「住みよい魅力あるまちづくり」とか、「尾鷲市に住んでいてよかったと思えるまちづくり」などと所信表明でその厚かましさがもろに出ています。

市長職の女房役である副市長の人選も進んでいないようです。最初、5月の連休明けには、新しい副市長と教育長を選任したいと公言していましたが、副市長の当てはあるのかないのか。私の聞くところでは県へ頼みに行っても相手にされなかった。もう一度国から派遣してもらうように地元選出国會議員に仲介をお願いに行ったら「私は関知しない」と断られた。奥田市長に対して、県も国もそっぽを向けているそうだが、それはゆゆしき問題ではないのか。なぜこんなことになるのか。それを証明する出来事もあったようですが、市長は県や国とのパイプが早々に詰まり始めたことを感じていないのでありましょうか。市長の率直な実感を聞かせてください。

去る4月20日、東紀州初めての高速道路、尾鷲南 - 三木里インター間、5.3キロが開通し、知事や衆議院議員らに出席をいただいて開通式が行われました。地元を代表して奥田市長が祝辞を述べましたが、その中で、「黒塗りの公用車を廃止したため、ここまで自転車で来るわけには行かず、自分の小さな車で来た」と述べられました。開通を祝う式典で、どうしてこんなことを言わねばならないのか。まるで「あなたたちは黒塗りの公用車にふんぞり返ってやって

来たようだが、私は公用車の廃止を公約に掲げて当選した。政治家たるもの、役人たるもの、かくあるべし」と胸を張ったつもりではないかと私は推測しているのですが、県関係者が「尾鷲市長は常識もモラルも持ち合わせていない」とささやいていたそうでもあります。礼儀もマナーも知らない無知がなせる醜態と言わざるを得ません。

これは一つの例ですが、私に言わせれば大失態の例です。こんなことを今後も繰り返すおそれは十分あります。知事を始め国、県の議員、幹部の方々、近隣の市町長、開通のお祝いに参列された皆さんに失礼をおわびしたのだろうか、大変気になるところです。市長の見解を聞かせてください。

去る5月19日、尾鷲市中央公民館で市連合婦人会の皆さんと奥田市長との初めての話し合いがありましたが、市長の口からとんでもない話が次から次へ出て、穏やかな話し合いができないまま、最後は市長が一方的にまくし立てたことが三木里婦人会の会報で報告されています。奥田市長の発言というのは、三木里インター線の搬入土砂問題で、「基準値が大丈夫なんだから水は大丈夫と言う婦人会がおかしい」、「奥田市長を落とす会をつくるなんておかしい」、「婦人会は土砂問題に対して全く動かない」、「自然環境と言う資格はない」といったことですが、三木里住民からも、「市長の暴言、妄言は脅迫だ」との投稿が、先日、地元紙に掲載されていました。市長に対して謝罪を求めるとも書かれてありました。どのようにされましたか。市長の見解を聞きたいものです。

また、三木里地区通常総会の中でも、「市長から、三木里には一切協力しませんとの電話があった」と区民の1人が報告したということです。「三木里住民も尾鷲市民ではないのか。税金も納めなくてよいというのか」などと大騒動になったと関係者から聞いています。

先日の地元紙に、市議会議員有志が市連合婦人会の皆さんと懇談された内容が大きく報道されていました。私も聞いていたことがかなりあったのですが、これは市長批判の意見として軽んじてはならないと思います。市民の真剣な声、市長の責任を負うべき問題であると私は受けとめているのですが、市長、あなたはどうか受けとめていますか。

市長は、所信表明で「市民の目線での政治を目指し、中学生にもわかる開かれた市政を意識し、主婦感覚で財政改革などを実施していく」と述べていますが、その主婦感覚たるや、早々にして三木里の婦人たちとのあつれきを見せているのではないですか。まくし立てるしゃべり、一方的に決めつける発言、最後には問答

無用と言わんばかりの言動は、市民の目線に立てるはずがありません。いわんや「中学生でもわかる市政」なんて、とんでもない欺瞞です。

市長選挙のとき、16の公約を掲げ、それを所信表明の中に明記していますが、財政再建に尽力する一方で、企業経営（起業家）支援やまちづくり工房などの設置、出張所・公民館の充実、福祉関連産業の振興などを掲げ、柔軟な発想としがらみのない市政の推進を目指すとしています。これらの公約が今後どのようにして具体的に進められるのか注目をしなければなりません。尾鷲総合病院を中心とした医師不足などへの対応も今日的な関心事ですが、市長が触れていない問題等は多々あります。中でも、私は柔軟な発想やしがらみのない市政については、奥田市長自身の大いなる反省と意識改革がなければ逆行すると予感を持っております。誠意ある答弁を求めます。

議長（與谷公孝議員） 市長。

〔市長（奥田尚佳君）登壇〕

市長（奥田尚佳君） それでは、真井議員の質問に答えたいと思います。

真井議員は、私の議員時代も非常に厳しい質問をされていましたが、市長がかわっても厳しい質問をされるんだなと思います。

私は、確かに所信表明の中で、「ちょうど4年前、議員にさせていただいたときと同じ気持ちで、この尾鷲市を愛する気持ちはだれにも負けないとの自負を胸に、初心を忘れることなく、市民の皆さんと一緒に汗をかき、時には一緒に悩み苦しみ、今後4年間、気を引き締めて市政運営をやっていきたい」と答えました。でも、このことの意味は、確かに4年前に私は議員にさせていただいて、ようし、尾鷲市のためにやるぞという気持ちで臨んだんですね。それが4年間議員をやっていて、いろんな一般質問を何回もやった、毎回やりました。でも、その中で消化不良になることがいっぱいありまして、嫌気を差したところも結構あります。そういう意味で、今回の選挙を勇気を振り絞って出まして、皆さんのおかげで当選させていただいた。また改めて、よし、やるぞと、その気持ちはやっぱり4年前と同じだのと、尾鷲市のためにやるんだと。議員を4年間やってきて、少しそういう気持ちが薄らいできた自分がいた。一生懸命やってきたけども、嫌気が差した部分があった。そういう中で改めて市長にさせていただいて、ようし、いっちょやるかと、そういう気持ちで述べさせていただいたものであります。ですから、その辺のところを言葉じりを言わないで、ぜひご理解いただきたいというように思います。

それで、私は4年前、16年3月の選挙で議員にさせていただきました。丸4年議員をさせていただきました。私は、尾鷲小学校、尾鷲中学校に入りましたけども、それ以降は尾鷲を離れていまして、平成11年に尾鷲の駅裏の古戸町の自宅を購入しました。そのときに住民票はこちらへ移しています。私だけ移しました。家族は向こうです。ですから、そういう意味では、ずっと私は尾鷲市に対して人並み以上に税金を払ってきたつもりです。そのことは自信を持って私は言えます。そして、正直申し上げて、私は議員になる器でもないし、議員になるつもりは全くなかった。でも、平成15年、5年前に名古屋にも私は自宅を買ったんです。ですから、名古屋にも今、自宅があります。ひょんなことで4年前、兄貴が選挙に負けたとか、いろいろありました。私は、尾鷲小学校の児童会長、尾鷲中学校の生徒会長をしたということで、皆さんにはわかっていただけないかもしれないけども、常に尾鷲市のために何かしなければいけないという気持ちをずっと持っていました。でも、市議員になるつもりは全くなかったんです。でも、兄貴が選挙で2年前に負けたということもありまして、そこで芽生えるものがあったということで4年前に立候補させていただきましたということであります。ですから、税金は、私はずっと11年から議員になる前、尾鷲市に月二、三回しか来ていなかったと思いますけど、それでも住民税を納めてきたということをご理解いただきたい。

なぜ家族が名古屋にいるのかということを言われました。確かにそれは、私が市長選に立つということを決めて、そのことは私も十分悩みました。女房ともこのことは何十時間と話し合いました。それで、結論的には今のままでは市民の方の理解を得られないということで、やっぱり家族は家族の事情があるんですよ。私の名古屋の家のすぐそばに女房の実家もあるんですけども、母親が体の調子が悪いとか、毎日見に行ってもあげないといけないとか、教育の問題もあります。そういうこともあって、私は市民の方に誤解を与えないようにということで、宮崎県の東国原知事が離婚して出たということがありましたので、私は最終的に女房と話し合っ、2月の下旬に籍を抜いて、そして、それで市民の皆様にも何も迷惑をかけないということで、きちっとこういうことをして、そして私は立候補を表明させていただいたということでありますので、そのところをぜひご理解いただきたいというふうに思います。

それで、市長職の女房役の副市長ということについて、今、真井議員は全然違うことを言われましたけど、県は全然そんなことを言っていませんし、国にも私

は働きかけたことは一切ありません。国へは私は肝に銘じて一切頼んでいませんよ。最初から国には私は頼んでいません。確かに前鈴木副市長は非常にいい方でした。私は本当にぜひ残ってほしかった。でも、残ってくれないと。何回頼んでも、慰留に努めましたけども残ってくれなかった。だから、もうその時点で、私は国はあきらめています。ですから、国には一切私は副市長の候補を挙げてくれという話はしていません。県の方も、知事が言われたのは、この4月で今、人事異動をやったばかりやということで、僕は県から聞いている話では、ほかの部長クラスの方から聞いている話では、半年や1年、尾鷲市の市長がかわったわけだから、そこの状況を見きわめてから考えたいということなんです。ですから、けんもほろろに断られたとか、そんなことでは一切なくて、そういう意味で、私もしつこく今、県の方に働きかけているという状況でありますので、ぜひその辺のところをご理解いただきたいというふうに思います。

それで、4月20日の尾鷲南と、それから三木里インター線の開通式のことを言われました。このときに私はいろいろと感謝申し上げました。15分で行くわけですから、県や国に対して本当にありがたい道ができた。ただ、やっぱりあそこで5分待たされるという状況がありますので、まだインター線の問題は残っています。ですから、ぜひ引き続き、県と国の皆さんにこの解決に向けて力をおかりしたいということを申し上げました。

それで、確かに真井議員が言われたように、冒頭で私はこういうことを言いました。ちょうど入っていったときにとめられたんですね。やはり黒塗りの公用車が多いからだと思います。どちらの方ですかとめられたのは事実です。で、そういうことを言いました。私は、別に県の人とか役員の方々に対して無礼なことがあったと、そういうふうにとられることに関してはおわび申し上げますけども、この行事というのは私が市長になって初めての大きな公務だったんですね。ですから、行くなりいろんなインタビューを受けまして、そういう中で、この東海4県の中で一番若い首長ということで、マスコミにも若さをアピールしたいという意味で申し上げたつもりなんですけども、そういう意味で、皆さんにそういう思いを抱かせたということであれば、私はこの場をおかりしておわび申し上げます。大変申しわけありませんでした。

それで、5月19日の市連合婦人会との話し合いの中だと。このとき30分しかなかったんですけども、ちょっとオーバーしたと思うんですけど、各地区の婦人会長さんからの要望が多々ありまして、それに対しては市としての対応という

ことを申し上げました。その中で、三木里婦人会の方からいろいろと話があった中で、確かに私の言葉足らずで誤解を招いたということに対しては深くおわびしたいというふうに思います。でも、あそこに新聞に載っていたように、最後に私が一方的にまくし立てて会場を出ていったなんていうことが出ていましたけど、そんなことは一切なくて、これはもう役員の方が何人もいらっしゃったから聞いてもらったらわかると思いますけど、私が最後に出てくるときに、いろんなことがありましたけども、解決に向けてとにかく前向きに話し合いましたよと言って、むしろ僕は、ほかの方に聞いてみてくださいよ、一方的に言われた方のことを信じるんじゃないくて、あのとき本当に穏やかな形で出てきたんですよ。

(「聞きました、出席の方に」と呼ぶ者あり)

市長(奥田尚佳君) ですから、そのことをぜひご理解いただきたいというふうに思います。

それで、私は何度も申し上げますけども、この婦人会の方に申し上げたのは、グリーンツーリズムの話が出ていまして、北輪内中学校を利用して、自然環境をうたって体験ということで人を呼び込むんだという計画を立てているということがありました。これは数千万円の事業でありまして、最終的に尾鷲市が15%負担ということで1,000万円近いお金を出さないといけないということがあります。そういうことですから、婦人会の方々が日ごろから環境に対してやっていることに対して、私は評価していると。ただ、グリーンツーリズム、それを一生懸命やるのは構わないけども、もしそれをやられるんだったら、私はまず八十川問題でしょうと。あれだけのごみが出てきて、廃棄物がどんどん出てきて、ああいう状況の中で、私は先に八十川問題を解決しないことには人を呼び込むわけにはいかないし、自然環境をうたうんでしたら、まず八十川問題をきちっと解決した上でグリーンツーリズムを取り組んではどうかということ、そういうことを申し上げたわけです。ですから、私は地元の名柄町の生まれなんですよ。何度も申し上げたように、三木里幼稚園にも1年汽車で通いました。尾鷲幼稚園が2年保育というのが抽選で外れて1年汽車で通ったんですけど。私は、地元のことを思って、地元って皆さん、特別だと思っただけですよ。私は市長という立場ですから市全体は平等です。ですから、思いとしては自分の生まれ故郷を思わない人がだれがいるんですか。私は三木里のことを真剣に思っているから、それは、確かに私はこのときにも、そんなに言われるんだったら、いろんなことを言われるんだったら、ごちゃごちゃ言われるんだったら、私はそんなんやったら三木里に力

が入らないじゃないですかと、じゃ、私はもう協力できませんよということはいましたよ。これは申し上げました。そういうことを確かに申し上げたことに対しては深くおわび申し上げますけども、そういうことの話の中で言ったことだということで、その一部分だけ取ってということは何ひおやめいただきたい。私の意図するところをぜひ踏んでいただきたいというふうに思います。

それで、大いなる反省と意識改革ということですけども、反省すべき点は反省して、私自身もとにかく守りに入ってはいけなと。守りに入らず失敗を恐れずに思い切ってやろうかなと思っていますので、それは失敗はあるかもしれませんが。そのときはおわび申し上げますけど、それで意識改革も必要なところはしていかないといけないなというふうに思っております。

以上です。

議長（與谷公孝議員） 5番、真井議員。

5番（真井紀夫議員） あなたは市会議員じゃないんです。市長なんです。そういうことでは、あなたの意識改革がなかったら、これからはいろんな大失態の例が僕には出ると思いますよ。僕らは15分の1、16分の1の議員ですけども、あなたは2万2,000人の市民全体の代表なんです。その重みをあなたはまだわかっていない。その辺のところの反省と意識改革はしっかりとやってもらわないかん。そうやなかったら、みんな迷惑する。今、県と国のパイプは、私はもう詰まってきたと違うかと言いましたけど、今まで、これは市の職員が、そして市民のいろんな代表の方々が、一生懸命になって人と人とのつながりをつくってきたんです。それがあなたの一言一言でぶつぶつと切れていく。そのことがわかりませんか。尾鷲はそれほど大きな力を持ったまちじゃないですよ。いろんな方々の力をかりてやっていかないかんです。もっと人と人とのつながりを大事に考えませんか。いえ、まだ質問していますよ。あなたはそこのところを反省と意識改革がなされていないと僕は言うとするんです。

副市長の当てはないんですか。今もってないんですか。これは、尾鷲市の今後の行政の進め方に大きな影響を与えますからね。私は一番そのことを心配しております。何とかいい人があってくれんと、奥田市長の今の考え方では尾鷲市はもたないと、僕はそれぐらい心配しております。それで、失礼があったら、あなたはおわびに回らないかん。パフォーマンスをやっとなだけではないかん、僕はそう思いますよ。

それから、三木里の方々には、あなたはきちっと謝罪をせないかんと思う。こ

れは何があろうとかがあろうと、市長として発言できる言葉じゃないですよ。言っただけなら言葉ですよ、一切協力しないと。あなたは住民や市民を何とおっしゃるんですか。僕はきちっとした謝罪をやるべきだと思う。一切協力しないって、あなたは傲慢過ぎませんか。そここのところの反省をもっとせないかんとおっしゃいますよ。

それから、今、八十川のことを言われましたけど、この八十川の三者協議会が1月から出発したんですか。これは去年の暮れに三木里地区が出された広報ですね。その中にこう書かれておるんです。「地区、県、市で三者協議会を設置し、地区が主体となる」と書いてあるんです。県と市と協議していくと。あなたが主体やないんです。地域住民、地区の方が主体なんです。そここのわきまえがない。あなたが一番混乱させておると僕は思いますよ。この前の3日の新聞を見ましたけども、あなたの独演会じゃないですか。少なくとも三木里の地区の住民の方々がここで一番主役を演じる場所でしょう。それが、あなたはもう決めつけておる。5条をやらないかんとか、やれ水源を移設しなければならんとか、もう決めつけておる。協議する前に、あなたはそう言い切っておる、新聞記事を見る範囲でね。違いますか。ちょっと出過ぎじゃないですか、あなた。市長といえども、やっぱり住民を立ててこそ市長の値打ちがあると思いますけど、住民の頭を乗り越えてしゃしゃり出ていく、あなたのその傲慢さを私は心配すると言っておるんですよ。もうちょっと住民本位に物を考えられませんか。ここで協議して採決の結果まで出ておる。78%がこの三者協議会でいこう、22%の方はもっと厳しくいこうと、こう書かれておりますけども、大多数の78%の方が三者協議会で地区が主体となっていこうと決めておるんです。あなたは市長といえども、それを無視することをやるんですか。そこら辺のわきまえがない、僕はそう思う。これから、そういうことでは、県やとか国とかとどういうふうにして話し合いをしていくんですか。一議員のときはよろしいでしょう。ある程度、やりたい放題、言いたい放題。市長はそんなわけにいかんでしょう。2万2,000人の方々の責任を背負っとるんです。その辺をあなたは全く意識改革できていないし、反省もしていない。

けさの伊勢新聞に、八十川土砂問題の現地で、しゅんせつ土砂から廃棄物を撤去する作業が既に始まっており、今月23日までに作業が終わるとあります。23日には三者協議会が立ち会いで、了解を得られれば、土壌と水質調査も7月下旬までに結果が出る見込みだという。三者協は、1月に三木里インター

線搬入土砂問題にかかわる確認書が締結されてから、今月の3日が初めての協議会であったと。開会前から、奥田市長は、県の責任で水源の上流移設を求め、県の尾鷲建設所長が「移設ありきではない」と答える一幕があったと。高速道路、尾鷲 - 三木里インター間は、ここ1カ月余りで3回の通行どめがあったという。先日初めての三者協議会では、市長は独演会をされておったようでございますけれども、次のときにはもっと控えてもらわないかと思う。地区の方々に主役を演じてもらわないかと思う。その辺を含めて、もう一度答弁をお願いしたいと思っております。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 真井議員、言葉を返すようですが、議員は言いたい放題、やりたい放題でいいけども、市長はそういうわけにいかないだろうということですけども、議員もそれは控えてもらわなあかんとしますので、その辺をご理解いただきたい。何を言ってもいいというわけじゃないと私は思うんですけど。

県と国のパイプということにつきまして、私もこれは非常に大事だと思っております。県の方でも幾度となくいろんな話をさせていただいております。国の方も、幸い今、農工商連携ということで、尾鷲市が一つのモデルになっているということで、国の方もいろんな意味で尾鷲市の方に、経済産業省を始め、支援をしたいということをお願いしております。そういうことで、決して私は気づかないというわけじゃなくて、どんどん今までにあるパイプを太いパイプにしていかないといけないなという気持ちでやっておりますので、ぜひその辺のところをご理解いただきたいというふうに思います。

それで、三木里の問題ですけども、確かに私は3日に三者協議会の席で申し上げたのは、第1条もそうですけど、第6カ条ある中の特に第5条、県の検討委員会の方からも示された新しい水脈を見つけるとか、そういうことを市と検討しなさいということについて、私の市長就任前ですけども、過去3回開かれた三者協議会の中では話し合われていないということでありましたので、今の三木里の置かれている状況を考えて、区長も悩んでおられる、いろんな方が悩んでいるわけですね。ですから、この問題を早く解決させるためには、この三者協議会の中で第5条も含めたきちとした話し合いをしないことには解決できないと。だから、その中で、私は水源地の移設ということも、新しい水脈ということはそういうことですから、そういうことも含めて議論していただくと。議論に入るわけですから、その議論がどうなるかということ、あとは三者協議会を見守っていた

だいて、その中で結論が出ていくんだというふうに思います。決して悪い方向に進むというわけじゃなくて、私は何度も申し上げているように、三者協議会というのは三木里区の中で承認されたものですから、それを全く私は否定しているわけじゃなくて、三者協議会の中できちっと話し合っていて、できるだけ早い時期に解決を図っていきたいというふうに思っていますので、そういう意味で、本当に区長も頭を抱えているわけですよ。この前も話して、区長の体調は大丈夫かなと私は心配したんですけども、区長の方も、何とか市長、リーダーシップを取ってやってくださいということを言われましたので、そういう意味で、私もリーダーシップを発揮して、少しでもいい方向でこの問題を解決できたらなというふうに考えております。別に私は混乱させるためにやっているわけじゃなくて、少しでもこの問題を、今の置かれているまちの状況を考えて、どうやってこれを皆さんが納得する形で持っていったらいいのかなということをいろいろ考えていまして、まだ、ここでは、議会の中では申し上げていないこともありますけども、いろいろ考えていまして、皆さんが納得するような形で、今までのように皆さんが仲よく、せっかく三木里は海水浴場なんかもあって観光の名所になっているわけですから、婦人会の方々も環境に力を入れていただいていると。そういう本当にいいまちですから、そういう意味で、いつまでももめている場合じゃないと。そういう意味で、私は早く三者協議会を再開して解決に向かっていきたいというふうに考えています。だから、皆さん、誤解だと思えますけど、決して私は三木里を混乱させるためにやっているわけじゃなくて、これは三者協議会が始まらないことには工事が進められないということもありました。だから、速やかにやりましょうということで、5月30日、区長との合意のもとで速やかにこの前の6月3日に開かせていただいたという状況でありますので、ぜひその辺のことをご理解いただきたいというふうに思っています。

議長（與谷公孝議員） 5番、真井議員。

5番（真井紀夫議員） 理解できませんね。三木里区の広報をもう一遍読み直してください。三木里区の方から臨時総会に諮って、そして議決をして三者協議会をつくるという形で臨んできとるんですね。その中に、これは地区住民が十分審議されたんだと思うんですけども、地区が主体となって県と市と協議をしていくと、こう書かれておるんです。そここのところの精神、その考え方を、まず尾鷲市長が理解することじゃないですか。そして、尾鷲市は、実務を責任持ってやる職員が何十人もおるんです。その方々が、今までも県や国やとかいろんな形で相談をし

たり、それからお願いをしたりということで、今まで行政の実務がなってきたんです。それは人と人とのつながりでもあるんです。その辺のところを大事に考えたら、課長や課長補佐や係長にしっかりと仕事をしてもらうように、あなたは指揮をとるのはええけども、あなたが前出て行って演説をぶって、そして混乱させておるじゃないですか。そこの辺がわからんですか。だから、あなたは市長だと私は言っておるんですよ。すべてあなたが先頭に立ってやれるのなら、それはそれで結構ですけどもね。みんなそれぞれ役割を持って分担してやるんでしょう。あなたが行けば行くほど混乱しとるじゃないですか。新聞を見ただけでもわかりますよ。あなたは決めつけとるもん。建設所長は、「市長さん、移設ありきじゃないんですよ」と言うけども、それにもふっかけて、「いや、移設をやってもらわないかん、尾鷲市は求めます」と書いてあるじゃないですか。これは新聞記事の間違いですか。そこら辺のところを、あなたは、自分は何様か私は知らんけども、ちょっとその辺のところはわきまえがなさ過ぎるんじゃないんですか。もう一度答えてください。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） その辺は勘違いがあると思うんですけども、もちろん私はさっきから申し上げているように、この三者協議会というのは、地区会の承認を得ています。ですから、私はこれを否定しているわけじゃなくて、6カ条あるわけですから、きちんと6カ条を全部議論していただくと。その中で、私は区長との何回かの話し合いの中で、区長もやっぱり第5条の「新しい水脈を市と協議する」という部分がありますから、真剣に議論するということがあります。ですから、区長も、最終的に市のそういうふうに言われることに対しては全面的に合意しますと、その方向で区と市が一緒になって、この第5条に対して、県に対して申し上げるということで、これは合意しているんです。合意事項ですので、私は決しているんなことに違反してやっているというわけじゃなくて、三者協議会も、それは恐らく三木里区が、今、主導ですよ。この前だって三木里区が全部司会をしてやっていただいたわけですから。ですから、そういうことで、私は三木里区が中心となって三者協議会を話し合っていたらいいんですから、ただ、そういう形でこの三者協議会に臨むということ合意していただいて、そして県に対して物を言うというのは、何かやっぱり遠慮があるんですよ。でも、我々も県民ですよ。市民であり県民でありますからね。ですから、そういう意味で、県が私たちが悪かったということを認めています。ですから、そういう中で、この

第5条を議論すると。これがどういう議論になるかというのはわかりません。わかりませんが、水源地の移設ということを含めて、ここの中で議論しましょうということで区長と私は合意していますので、その中で区の方できちんと司会もしていただいて、区が主導になって、この三者協議会を議論していただくということでもあります。

ですから、私は別に担当課を無視してやっているわけじゃなくて、今の工事も、水道部の方で立ち会いにも行っていますし、そういうことでご理解いただきたいというふうに思います。

議長（與谷公孝議員） 5番、真井議員。

5番（真井紀夫議員） あなたは主導主導と言いますが、それやったらもうちょっと慎んだらどうですか。私は新聞紙上でしか知りませんが、あなたが全部そういう形で決めつけておられますよ。「5条をやるべきだ」、「水源を移設すべきだ」、はっきり書かれておられますよ。協議じゃないですよ、これは。私が言うのは、あなたが出ていったら、市長という肩書がありますから、皆さん、遠慮するんだと思うんですけども、もっと地区住民の声をどんどん出してもらって、地区住民の中で意見をまとめていただいて前へ進めていくと。それがなけりゃ、先ほど住民自治というような言葉も出ておりましたけども、私は、あなたはその辺のところを誤解しておると思う。姿勢を変えるべきだと思いますよ。その辺どうですか。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 真井議員、私はそれは言い過ぎだと思いますけど、住民自治を私は全然否定しているわけじゃなくて、今の置かれている三木里の状況を見て、先ほど申し上げたように、兄弟でも親戚でも、本当に今、いがみ合いをして仲間割れとかをしている状況であります。そういう中で、私はこの三木里の八十川土砂問題の本当の解決というのは、皆さんが本当に、ああ、よかったねと、最終的に道路もついて、そして皆さんが納得いく状況がつかれるということが本当の解決だと思うんですよ。それを考えた場合に、今、私は、私の思いとしては、新しい水脈ということをおもひも検討していくということは回答が出ていますからね。県の検討委員会の回答を踏まえて、もちろん市と協議していくということがありますから、現状よりは新しい水脈を見つけるということの方が、より安心して安全な水を提供できるということがありますから、そういうことを踏まえて、私が思うには、そこのところに向かって皆さんが一致団結していただけるような形に持

っていけないかなという思いがあります。ですから、先ほどから何度も申し上げて、きのうも何度も申し上げましたけども、私は区長との話し合いの中で新しい水脈ということきちっと議論しましょうということで、この前、確認しました。その中でも、どうしてもそんなことは必要ないんだというように地区会が言われるんだしたら、それはそれでこれから三者協議会の中で話し合われるわけですから、その中で私はしっかり話し合っていたらと思うんですよ。その中で、皆さんが今、本当の意味での解決ということ考えた場合に、どうしたらいいのかということ地区会の皆さんも知恵を絞って私は話し合ったらどうですかと。だから、私は三者協議会を全然否定していません。きちっと県とも話し合う場が私は必要じゃないかと思います。ですから、そこで私はしっかりした議論をして、その中である一定の結論が出るんだしたら、最終的に出ますよね。出たら、それで皆さんが話し合った上での結論ですから、納得いくと思うんですよ。ですから、私は、とにかく県ときちんと話し合うということで、今、土俵に上がりましたので。この中でどう話し合いが進んでいくのか私も見守りたいと思っていますし、そういう意味で、真井議員もぜひその辺のところを踏まえて、この三者協議会をとにかく見守っていただきたいというふうに私は思います。

議長（與谷公孝議員） 5番、真井議員。

5番（真井紀夫議員） 市長、あなたは全くわかっていない、私はそう思いますよ。あなたは我がの意見を押しつけています、今も聞いておると。こうあるべきだ、あああるべきだ。きれいごとは、だれやったってわかっておるんです。だれだってそれはあるべきだと思っております。その中で、どこかで許容範囲の中でお互いが合意をしていかないかと、こういうことになるんだと思います。だけど、あなたの言葉でみんな混乱をしていっている、私はそう思っております。

（「そのとおり」と呼ぶ者あり）

5番（真井紀夫議員） そして、職員も県やとかいろんなところへ走っておるんだろうと思うんですけども、恐らく苦労しておると思うんです。本会議のこの一般質問の原稿なんかも書かれておるんだろうけども、私の耳に入ってくるのは、市長は原稿を外して自分で好きなように答弁しとるんじゃないかと、そんなような声も聞こえてきます。もう少し、あなたは職員の立場やとか皆さんの立場を考えるべきです。あなたはすぐに私は私はと、こういう形で自分を押し出してきました。これが尾鷲にとって一番マイナスだと思うから僕は申し上げるんです。それよりも、あなたは一步も二歩も下がって、しっかり後ろから見てやるのが、今、大

事じゃないんかと思います。実務は市の職員が今までずっと手がけてきたんです。あなた以上に知識は深いと私は思います。そして、地区の住民の方々は、それはいろんな考え方があるでしょうけども、それをあなたは口に出して、親戚がいがみ合うとるんやとか、何がこうやとかと、そんなことを言うべきじゃないでしょう。たとえどうあろうとこうあろうと、あなたが言ったら、その言葉が真実性を持って広く流れていくんです。その影響も考えられませんか。どん臭いやとか何やとかと、そんな言葉を使ったら使っただけ全部イメージを壊しておるんです。そう思ったら、自分の言葉をあなたは十分に反省せなあかんと思いますよ。これから市の職員にしっかりと働けといっても働けるんでしょうかね、こんなことで。その辺のところをあなたはわかっていない。だから、私は、しっかりとした副市長を早く入れんことには、尾鷲は大変なことになるんやないかと、こう思うから、副市長の当てはあるんかと僕は尋ねたんですよ。

あなたのご家族のことにつきましては、私は別段、あなたが立派なことを言うから、それならご家族も呼んだらということをやっただけで、あなたのそういう個人的な事情まで私は知る必要はなかったんですけどね。しかし、これも選挙の公報に載っておる事実と違いますね。新聞紙上にそうなっていましたよ。僕は、ここで先ほど聞いてびっくりしました。そういうのも選挙の関係でどうなのか、ようわかりませんが、いいんですかね。そんなことはそんなことで、あなたは公人なんですから、そこところはきちっと明らかにしておかないかなんだんじゃないんですかね。それは選挙の上において、しとかないかなんだんかどうかわかりませんが、あなたにはお二人の子供さんと奥さんがお見えになるというふうにして新聞紙上に出ています。これはあなたの経歴とあわせて載ってありましたけどね。

それはともかくといたしまして、私は、そういうことで市の職員がフルに働けるように、そして、今までの人と人とのきずなが切れていかんように、尾鷲のために頑張ってもらうように、そして、地元の人たちが、たとえどんなトラブルがあろうとも、それが円満におさまっていくように、問題が解決していくように願うんです。ですから、それだけに、議会やっただけで今までこのことについて決して知らんふりをしておったんじゃないんですよ。あまり前に出過ぎると混乱を招くから常に後ろにありましたけどね。しかし、現地へ何回も行きました。そして県の方々と話し合いをしました。しかし、そこはそこでわきまえて議会も今まで来たんですよ。それをあなたは全くわきまえない。市長になったらわきまえて

るのかと思ったら、なおさらそれは拍車をかけておる、私はそう思います。僕はあなたに反省を求めます。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 確かに私は、議員時代と市長とは全然立場が違うということはわかっているつもりでありまして、その言葉の重みというのも十分わかっているつもりであります。それで、やっぱり市長たる者、リーダーシップをとらなあかんと。これは、三木里の八十川土砂問題というのは2年間続いているわけですよ。ですから、市民の生命・財産を守るという立場で、市長として、私は議員時代は、この件に関して一般質問も2回しました。水源地の移設ということも求めたらどうかということも申し上げたことがあります。私は市長にさせていただいて、きのうも申し上げましたけども、16個の中の一つの公約です。選挙のはがきの中に16個のやつを10個に絞りましたけれども、その10個の中にもこの問題を入れました。なぜ三木里の問題を入れるんだと言う方もたくさんいらっしゃいましたけども、とにかく私はこの問題というのを早く解決したい。早く解決させるためにはリーダーシップをとって、今の時期、もう2年もかかっているわけですよ。2年もかかっている解決できない問題ですから、この三者協議会は今後どうなるかわかりませんが、ある程度のリーダーシップをとって介入していかないと、この問題は解決できないというふうに思いまして、今、そういう意味で一生懸命やっているという状況であります。

私は、この三者協議会の中で第5条を議論していただく、これが解決の第一歩だと思っております。ほかに私は、真井議員にもお伺いしたいですけれども、質問権はないんですかね。ほかの解決策があればお示しいただきたいんですよ。この三者協議会が、とにかく今、始まりました。この中で、先ほど申し上げましたけれども、どういう議論がされて、どういう結論が出るのかわかりません。それでも皆さんが納得していただいたら、それでええと思う。でも、やっぱりきちんとした議論をしてほしい。そういう意味で、これまでも市もきちんとした議論をしていないところがあるんですね。ですから、きちんとした議論をした上で、皆さんが納得できる着地点というのを私は見つけたいというふうに思っている次第でありますので、その辺、ぜひご理解いただきたいと。

それから、職員がフルに働ける状況をつくれということでもあります。確かに皆さんが思い切り自分の力を発揮して働いていただく、これは非常に重要なことでもあります。ですから、私は少しでも風通しのいい市役所にしたいなというふうに

考えております。それで、確かに今回の一般質問、私はノー原稿です。これまでの前市長の場合は、執行部の方で1回目の回答というものはきちっと一字一句チェックして徹夜してつくっていたと聞きます。でも、そんなことは、私はむだじゃないかと。本来、市役所たるところは、それは議会に対する答弁書をきちっとつくるといことも大事だけでも、まずは市民に対する行政サービスをきちっとするということがより大事だということもあって、それともう一つは、職員の方々の負担を何とか少しでも軽減させたいと。そういう意味で、今回、回答書はつくってもらっていません。ただ、この一般質問に当たって、皆さん方のこの前の通告がありました。その中での議会事務局でのヒアリング、それから各課のヒアリングがどの程度やれたのかわかりませんが、その中で、各担当とどこまでどういうふうな回答をするかということに対しては、皆さんときちっと話し合っているんですよ。だから、私が勝手に方針に対して答えているということではなくて、きちっと資料を私はいただいて、その中で、今回の場合は所信表明が出たということで、初めての議会ということで、私の思いを聞きたいという質問が多かったと思うので、そういう意味で、担当課ともいろんな意味でどこまで踏み込んで話をするか、どういうふうに話をするか、そのことについては各担当課ともよく話し合っておりますし、そういう意味で……。

(「簡潔に」と呼ぶ者あり)

市長(奥田尚佳君) 私が勝手にいろんなことをしていると、それで職員が困っているとか、そういうことは私は一切ないと思うんですよ。逆に今までよりも労力が減ったと思うし、いろんなコミュニケーションをとってやっているわけですから、そういう意味で、ぜひ真井議員、そういう表現をされないで、私もなったばかりですから、もちろん職員の方に私も最初の訓辞のときに申し上げました。今まで皆さん一生懸命やってられると思うけども、今までの110%、120%の力をぜひ発揮できたら発揮してくれということも話しています。ですから、私は、何とか今までより風通しのいい、皆さんの意見がどんどん言える状況に持っていきたいというふうに考えています。ですから、それは私は誤解だと思しますので……。

議長(與谷公孝議員) 市長に申し上げます。質問者から簡潔にという言葉もありますので、考慮してください。

市長(奥田尚佳君) そうということで、ぜひご理解いただきたいというふうに私は思います。

議長（與谷公孝議員） 5番、真井議員。

5番（真井紀夫議員） あなたはリーダーシップ、リーダーシップと言いますけど、八十川問題は、市長がリーダーシップをとるような問題ではないと私は思いますよ。地区の住民の方が一番困っておられる。困っておられる方々が、一番このことについて真剣に取り組まれるという問題だと思います。それをサポートしていくのが行政であったり我々であったりだと思いますけどね。それを、あなたはいの一番に発言を求めて、そして、自分の考え方をどんどんと前に押し出してやっておるじゃないですか。それがリーダーシップとは、僕は違うと思いますよ。あなたは自分の意見を押しつけよるだけです。そのこのところの解釈が全く違う。

（「そのとおり」と呼ぶ者あり）

5番（真井紀夫議員） そういうことでは、僕はしっかりと反省してもらわないかと、こう思います。

また、市の職員が、僕は恐らく肩身の狭い思いをしとるだろうと思うんです。全部あなたの発言からですよ。僕はそう思いますよ。そんなマイナスになるようなことを、公人である、市長であるあなたが言ってはならんと思います。ましてやイメージダウンになるような言葉を吐いてはならんと思います。それならそれで、それを解決していくために、言葉じゃないと思います。実務で解決していくことだと思います。あなたは、すぐにそういう形で発言をして、そして、職員が動いていくときに頭を下げ下げ県や国に行かんなんのだろうと、私は容易に想像できます。その辺のところは、もっと市長として意識改革、勉強してもらわないかと思えますよ。

それから、最後に一つだけお尋ねしておきます。端的に申し上げますので、市長の明確なる見解を求めます。

今春の市長選挙にかかわって、奥田選挙事務所幹部の日下部寿史氏が地元紙に投稿された「選挙の人間」の内容の一部が尾鷲市議会で問題になりました。この市議会です。「5,000票は動かせる。300万円で協力するとの要求を、きっぱり断りましたが、今度は金額を50万円に下げて要求してきました。」と書かれていることについて、市長、あなたの奥田選挙事務所の最高責任者、奥地啓吾氏は、「そのような事実はない、根も葉もない事実無根の話だ」とはっきり全面否定されたと当市議会に報告されています。あなたの選挙にかかわった奥地氏と日下部氏のどちらが正しいのか、どちらがうそを言っているのか、市長の見解を求めます。どちらなんですか、教えてください。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） 真井議員、さっきから私は聞いていまして、大きな声で言っているのはわかりますけども、全然言葉に重みがないんですよ。

（「関係ないだろう」と呼ぶ者あり）

市長（奥田尚佳君） 私は、確かにそれは反省すべき点は反省したいと思います。でも、真井議員、それは自分の胸に手を当てて、私は言える立場かなと思いますよ。

（「あなたの見解を聞いておるんです」と呼ぶ者あり）

市長（奥田尚佳君） 証拠を出しましょうか、そんなんやったら。

（「奥地氏なのか日下部寿史氏なのか、どちらなんですか」と呼ぶ者あり）

市長（奥田尚佳君） いや、先ほども真井議員の中にもありました、私は「中学生にわかる開かれた市政」ということを言っております。僕は、そういう意味で、先ほども人権の話がありましたけども、やっぱり大人というものがきちっとやらないといけないと。そのことが子供のいろんな行動にかかわってくるわけですから。

（「市長、簡潔にお願いします」と呼ぶ者あり）

市長（奥田尚佳君） だから、私は記者会見でも申し上げたとおり、公の場で、公の場というのは裁判の場ですね。そういう場できちっと議論するというのであれば、きちっと証拠も出して、証人も出してやるというふうに申し上げているわけですから、こういう議会で個人的な問題について議論する気は私はありません。その方が真井議員にとっていいと思います。

議長（與谷公孝議員） 5番、真井議員。

5番（真井紀夫議員） 市長、この問題は、議会で問題になったことを僕は尋ねておるんです。あなたの選挙責任者、奥地氏が議会に言われたことが本当なのか、日下部氏が新聞に投稿されたことが本当なのか、どちらがうそをついているのか、それを端的に教えてください。

議長（與谷公孝議員） 市長、この部分は端的に答えられますか。

市長。

市長（奥田尚佳君） いや、このことについては、日下部氏が投稿したという行為につきましても、私ども選対本部の方も非常にびっくりした状況であります。

（「簡潔にどちらなのかはっきりしてください」と呼ぶ者あり）

市長（奥田尚佳君） それで、私が聞くところによると、選対本部長が、これは選対本部としてかわる問題ではないということを上申したというふうに私は聞いております。そういうことで、私も記者会見のときに申し上げたように、あそこ

に書かれている日下部氏が書いたことはおおむね事実であるということです。ですから、私は、真井氏もいろいろと反論がとおりであるのなら、私は最初、ノーコメントということでお答えさせていただきましたけども、その後の真井議員の行動を見ていまして、やはりこれはきちっと皆さんに報告しないといけないということで、4月16日に記者会見をさせていただきました。そのときに申し上げたように、個人的な問題ですから、裁判の場で議論されるということであるなら、私はきちっとその場で事実を申し上げるということでありまして、証拠資料も全部つけて申し上げるということでもあります。

議長（與谷公孝議員） 5番、真井議員。

5番（真井紀夫議員） もう一度最後に確認します。奥地啓吾氏が議会で話をされたことはうそだということですね。それだけ確認しておきます。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） いや、うそというか、先ほど申し上げたとおりでありまして、選対本部としては、この問題にかかわるつもりはないというふうに答えたというふうに私は聞いております。

議長（與谷公孝議員） 5番、真井議員。

5番（真井紀夫議員） 議会には根も葉もない事実無根の話だと、そのように話をされたと報告を受けております。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） それは、議会の方にどう答えたというのはわかりませんが、私が聞いている限りでは、先ほど申し上げたとおりであります。ですから、真井議員の方で、自分の胸に手を当てて自分は何もないんだということであるのなら、それは裁判に打って出てやられたら私はいいいんじゃないかと。こんなところでいろいろ個人的な問題を取り上げるような問題では私はないと申し上げます。

（「何を根拠にしているの、あんた。何を根拠にそんなことが言えるんですか」と呼ぶ者あり）

議長（與谷公孝議員） 5番、真井議員。

5番（真井紀夫議員） もうこれ以上は水かけ論になるかと思えますけども、市長、私は今、この件に関して、はっきりとあなたは真っ赤なうそをついておるということを言っておきたいと思えます。

質問を終わります。

議長（與谷公孝議員） 市長。

市長（奥田尚佳君） いや、私は一切うそをついているわけじゃありませんでして、記者会見で申し上げたとおりでありまして、きちっと証人の方も裁判になったら出ていただけるという確認をとっておりますし、私の手元にもたくさんの証拠資料がありますので、それを裁判になったら、私は皆さんの前にお示ししたいというふうに考えており、私は決してうそをついておりません。

議長（與谷公孝議員） 以上で本日の一般質問は打ち切り、あす12日午前10時より続行することにいたします。

本日はこれにて散会いたします。

〔散会 午後 3時37分〕